

平成 28 年度
スポーツ庁企画事業

事業名：子供の体力向上課題対策プロジェクト
(テーマ① 体力低下種目等の課題対策プログラムの開発等)

体育の授業を苦手としている小学校教員向け
研修プログラムの作成及び実践研究

調査研究事業報告書

研究代表者	白 旗 和 也	日本体育大学体育学部
研究分担者	大 友 智	立命館大学スポーツ健康科学部
	細 越 淳 二	国士舘大学文学部
	原 佑 一	岡山大学大学院教育学研究科

平成 29 年 3 月

目次

第 I 部	本事業の概要	1
1 章	本事業の趣旨及び目的	1
1 節	本事業の背景	1
2 節	本事業の目的	2
2 章	本事業の研究体制	3
1 節	研究組織	3
2 節	研究体制	3
3 章	調査内容	4
第 II 部	研修プログラムの開発	5
1 章	7 時間プログラムの設定と実際	5
1 節	7 時間プログラムのねらいと留意点	5
2 節	研修の実際	5
2 章	5 時間プログラムの設定と実際	28
1 節	5 時間プログラムのねらいと留意点	28
2 節	5 時間プログラムの実際	28
3 章	分析結果のまとめ	34
第 III 部	研修プログラムの効果	35
1 章	調査目的及び調査項目、対象、実施期日	35
2 章	分析の結果	37
3 章	分析結果のまとめ	43
第 IV 部	教師の効力感に関する検討	45
1 章	先行研究の検討	45
1 節	自己効力感研究	45
2 節	教師効力感研究	45
2 章	目的	47
3 章	研究方法	48

4 章 尺度の作成	49
1 節 体育授業版教師効力感尺度の検討	49
2 節 教師効力感に影響を及ぼす要因	49
5 章 教師の効力感調査の結果	50
1 節 調査対象者及び調査時期・調査方法	50
2 節 各項目の平均値と標準偏差	50
3 節 各要因と各項目のクロス集計	52
6 章 まとめ	82
第 V 部 本調査研究の総括	83
1 章 各調査研究の概要	83
1 節 研修プログラムの開発	83
2 節 研修プログラムの効果の検討	83
3 節 教師の効力感に関する検討	84
2 章 本調査研究のまとめ及び今後の検討課題	85
謝 辞	86

第I部 本事業の概要

1章 本事業の趣旨及び目的

1節 本事業の背景

1項 子供の体力や健康に関して

日本の教育では、「生きる力」の育成を目指している。このことは、教育基本法(平成 18 年法律第 120 号)の第 2 条(教育の目標)に「教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」と規定されている。つまり、日本の教育においては、「健やかな体」を育成することは必要条件である。平成 20 年 1 月の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援校の学習指導要領の改善について」では、「体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きくかかわっており、「生きる力」の重要な要素である。」と述べており、さらには「子どもたちの体力低下は、将来的に国民全体の体力の低下につながり、社会全体の活力や文化を支える力が失われることにもなりかねない。」と警鐘を鳴らしている。しかし、現実的には、運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向や子どもの体力の低下が依然深刻とされている。近年の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、ややよい兆しが見えているが、体力が高かった昭和 60 年頃と比べると低位な種目も多い。

2項 体育授業における教師の現状と課題

こうした体力の低下や運動離れは、決して学校教育だけが要因ではなく、いわゆる三間(運動する仲間、時間、空間)の減少など社会の変化がもたらした負の影響と言っても過言ではない。平成 27 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査でも、体育を除く一週間の総運動時間は小学生男子の 6%強、小学生女子の 13%強が 60 分未満と回答している。

しかし、どんなに運動しない児童であっても、体育の時間は、毎週 3 時間程度、必ず運動するのである。この運動が保証される時間をいかに魅力的にするかが、子どもの運動に影響することは間違いのないところである。このようにすべての教師がある程度の質を保障できる体育の授業を実践することが、運動好きな子どもを育て、結果的に体力の向上につながると考えられる。

文部科学省発行の「子どもの体力向上取組ハンドブック」によれば、体力が高い学校での教師の意識には次の共通点が見られる。

- 動きのコツがわかり、技能が身に付くこと
- 適切な運動量が確保されていること
- 発達の段階や個人差を踏まえていること
- 運動の特性に触れる楽しさを実感できること
- 運動の習慣化につながる教材提供ができること

研究代表者は、年間 200 ほどの体育の授業や 20 ほどの実技研修を実施しているが、こうした授業が十分なされているとは言いがたい現状を感じている。

2000 年以来、OECD による PISA 調査(児童生徒の学習到達度調査)をはじめとして、国内でも全国学力・学習状況調査が実施されるなど、わが国の教育の成果と課題が問われている。これは、各教科において示されている指導内容を確実に児童生徒が身に付けられるような授業の充実を求めていると言ってもよいであろう。体育科においても同様である。ま

た、体育は豊かなスポーツライフを目指す教科であることから、運動の楽しさを十分味わえる授業が不可欠である。こうした体育の学習成果を保障するためには、教師の深い教材研究、指導計画作成に裏付けられた授業において、学習課題の明確化や子供への積極的なフィードバックなどにより、質の高い授業展開が求められる(高橋、2011)。しかし、体育研究会などに所属していない小学校教師に話を聞くと指導資料や先輩教師の存在などの学びやすい環境が整っていなかったり、教師自身の運動経験や指導経験が少なかったりすることなどにより、教師が体育の授業改善に自信をもっておらず、諦めている教師が多いとの認識に至った。体育における授業改善に対する希望がもてないことは、学習成果の保障を考える上で大きな課題である。教師が抱える課題には「指導計画の作成手順」「指導内容・指導方法に関する知識」「教材に関する知識」「児童に関する理解」「安全に関する知識」「児童へのフィードバックの方法」「学習評価の知識」などが挙げられるが、これらを定量的に分析するとともに、単純に知識を教師に与えるだけでなく、その活用方法を含めた適時性のある支援(コンサルテーション)を行うことで教師の自己効力感を高めることにより、授業改善に意欲的に取り組めるようにすることが不可欠である。これらの課題の解決を目指し、子どもの体力向上につなげるためにも、教師が体育の目標、内容、方法を理解し、少しでも質の高い授業が展開できるための研修プログラムを開発する必要がある。

2節 本事業の目的

本研究の目的は、体育の授業を実施することに苦手意識を持っている小学校教員が、指導内容がしっかり身につく授業を展開できることにより、教師が自信と意欲を持って体育の授業に取り組み、結果として運動好きな子供を育て、体力の向上に寄与することを目指すものである。そのために、どの研修会でも効果を上げることができる研修プログラムを作成する。具体的には、以下の3つの観点から研究を行った。

- ① 体育の授業を実施するに当たって、苦手意識を持っている小学校教員が授業づくりの見通しがもてるようになるための実技研修と単元計画を作成し、その効果を検討すること
- ② ①で実施する教員研修の効果及び課題を属性等の観点から詳細に検討すること
- ③ 教員に対する研修等において、体育授業版教師効力感を高めることができるかという課題認識のもと、活用できる尺度を開発すること

2章 本事業の研究体制

1節 研究組織

調査研究組織は、以下の通りであった。なお、【 】内は、専門領域を示している。

研究代表者
白旗和也 日本体育大学体育学部 【スポーツ教育学】

研究分担者
大友智 立命館大学スポーツ健康科学部 【スポーツ教育学】
細越淳二 国士舘大学文学部 【スポーツ教育学】
原佑一 岡山大学大学院教育学研究科 【スポーツ教育学】

2節 研究体制

調査研究組織は、以下の通りであった(図 I-1)。

連携大学に関して、総括は日本体育大学、連携大学は立命館大学、国士舘大学及び岡山大学であった。

調査研究組織に関して、研究の総括は白旗(日本体育大学体育学部)、第Ⅱ部の研究統括は白旗、第Ⅲ部の研究統括は細越(国士舘大学文学部)、第Ⅳ部の研究統括は原(岡山大学大学院教育学研究科)が行った。

また、徳島県、熊本県、東京都、福岡県、山口県、鳥取県及び岡山県の小学校教員並びに教育委員会と連携して調査研究を実施した。

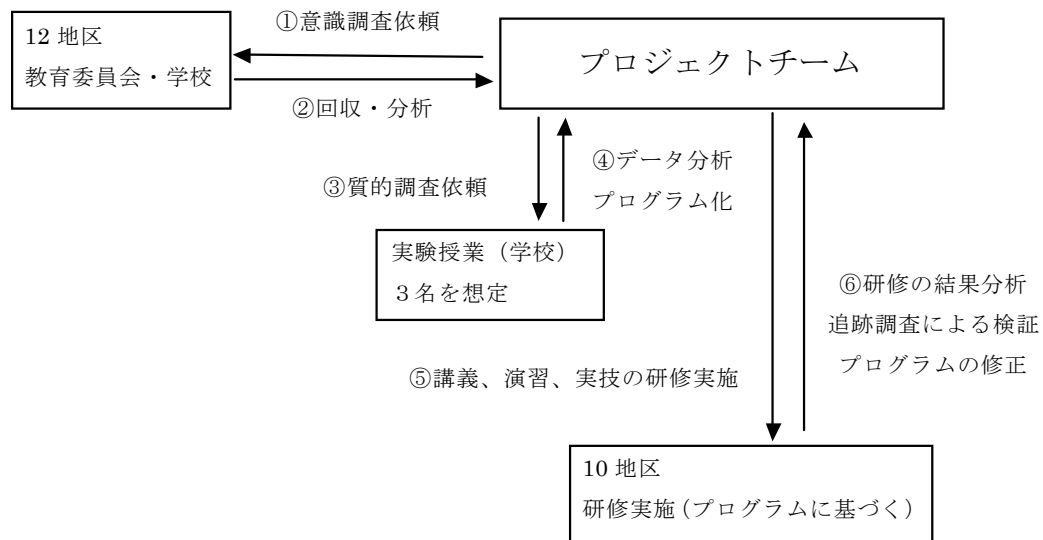


図 I-1 調査研究組織

3章 調査内容

本調査研究は、第Ⅱ部、第Ⅲ部、及び、第Ⅳ部に示す3つの研究から構成されている。

第Ⅱ部の目的は、体育の授業を実施するに当たって、苦手意識を持っている小学校教員を対象に実技研修と単元計画を作成する演習を実施し、授業づくりの見通しがもてるようにすることであった。そのため、7時間プログラム及び5時間プログラムの2種類のプログラムを実施し、その効果を受講生に対するアンケート調査並びに講師の印象の点から検討した。第1章は、7時間プログラムの設定と実際について、徳島県、熊本県、東京都、及び福岡県の4地域6事例を用いて検討した。第2章は、5時間プログラムの設定と実際について、山口県及び鳥取県の2地域2事例を用いて検討した。受講者数は、409名(7時間プログラム323名、5時間プログラム88名)であった。

第Ⅲ部の目的は、より効果的な教員研修の在り方を検討するための資料を収集するために、第Ⅱ部で実施した研修全体の効果を属性等の観点から検討することであった。東京都、徳島県、鳥取県、山口県、福岡県、及び、熊本県で開催された、体づくり運動領域、ボール運動系領域の講義及び実技研修に参加した教員413名を対象に調査研究を実施した。

第Ⅳ部の目的は、教師効力感のなかでも学級経営等の内容を除外した、教科指導＝体育の授業に関わる内容の尺度を開発することであった。尺度を検討し、O県K市の教員に対して悉皆調査を行い、現在教員が体育授業における教師効力感をどのように認識しているのかについて検討した。分析対象者は、回答の得られた986名(回収率59.6%)のうち、有効回答である859名(男性331名(38.5%)、女性527名(61.5%))であった。

第II部 研修プログラムの開発

1章 7時間プログラムの設定と実際

1節 7時間プログラムのねらいと留意点

体育の授業を実施するに当たって、苦手意識を持っている小学校教員を対象に実技研修と単元計画を作成する演習を実施し、授業づくりの見通しがもてるようにする。全国各地に於いて、様々な実技研修は実施されているが、実技研修では自ら子どもの代わりとなって体験することで動きのポイントや指導の進め方は理解できるものの、研修は教材提供や単元の中の部分的な情報提供にとどまる懸念がある。これでは、知り得た教材を繰り返し実施するにとどまり、計画的に単元を計画し、子どもに合わせて指導内容の定着を導くことが難しいと考える。そこで、7時間の時間を確保できることから、午前中には発達の段階を考慮した教材の工夫の仕方を中心とした実技研修を実施し、午後にはその経験を基に、指導内容の確認とそれを定着するための単元計画を作成する研修を実施する。このことにより、実技を通じた教材理解とそれを生かした単元計画の作成方法を理解することが可能ではないかと考え、実施した。特に事例1～3については、参加者を女性のみ限定している。これまでの実技研修実施の反省から、本事業で特に対象としたい運動に苦手意識のある教員の場合、男性教員、とりわけ運動が得意な教員がいる場合、研修への参加に消極的になる傾向があることから、女性のみで実施した。

2節 研修の実際

1項 事例1

徳島県では、参加対象を女性教員のみとし、研修内容を変えて2回実施した。その1回目である。

なお、事前に研修に参加する小学校教員から挙げられた主な指導上の課題や研修への要望は以下の通りである。

1 研修に対する要望

<ゲーム、ボール運動について>

- ・ボールゲームの基本的な教え方や効果的な指導方法

<体育の授業・指導方法について>

- ・子どもたちが楽しく、活発に活動できる授業にするために、授業展開方法を知りたい
- ・短時間で楽しくできる体ほぐし
- ・各運動領域に適した準備運動(ストレッチ、特にこの部位を重点的に・・・など)
- ・どの子も楽しめる授業の工夫について
- ・技能習得のためのコツについて
- ・運動のポイント、動きのコツなどおさえるべき点を学習指導要領から見つけてくるとき、子どもの実態に合わせて優先(どれからおさえるか)するものが分かりにくいので難しい
- ・運動することを苦手とし、体の動きがぎこちない児童が多い。動きのレパートリーを増やしたり、動きの質を高めたりするために授業の中で取り入れることのできる運動

<p>作業3 単元を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6～8時間扱い 2段階で考える <p>サンプルを手がかりに模造紙へ作成</p> <p>作業4 勝負どころの1時間の計画作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間の学習の進め方についてサンプルを基に作成 <p>○各グループから作成した単元計画の考え方を発表</p> <p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループのメモから解説 <p>終了</p>	
--	--

図 II-1 実際の研修の内容及び使用した用具(7時間プログラム 事例1)

6 研修プログラムの効果

本研修プログラムの効果は、受講生が研修後に実施したアンケート調査、及び、研修を実施した講師の印象の点から検討する。

(1) 受講生のアンケート結果

表II-1は、受講生の研修終了時のアンケート調査結果を示している。回答は、7項目について理解ができたかどうかについて「とてもそう思う」から「全く思わない」の5段階で求め、その人数及び割合を算出した。

表 II-1 受講生のアンケート調査結果

	とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
Q1 学習指導要領について理解できた 合計(n=28)	18	64.29	10	35.71	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q2 領域の考え方について理解できた 合計(n=28)	19	67.86	9	32.14	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q3 指導内容についての理解ができた 合計(n=28)	23	82.14	5	17.86	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q4 教材について理解ができた 合計(n=28)	25	89.29	3	10.71	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q5 指導方法について理解ができた 合計(n=28)	20	71.43	8	28.57	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q6 単元計画づくりについて理解ができた 合計(n=28)	21	75.00	7	25.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q7 動きのポイントについて理解ができた 合計(n=27)	15	55.56	11	40.74	1	3.70	0	0.00	0	0.00

(2) 講師の印象

午前の実技研修では、発達の段階に合った教師の工夫を課題として展開した。素材であるソフトバレーボールを児童が学びやすい教材に加工していく過程を実技で教員が体験しながら実感してもらうことを目指した。工夫のねらいと具体的な改善方法を示すことで、工夫する視点を理解してもらえたのではないかと感じた。また、女性のみでの参加であったため、ベテランの教員も臆することなく、最後まで実技研修に参加した。対話も多く、女性に限定した研修は効果を上げやすいと感じた。午後の演習では、小学校学習指導要領解説体育編の見方をわかっている教員がほとんどいないことに気付いた。具体的な指導内容を確認できたことは大きい。教員から「ここに書いてあるのか」といった声も聞かれた。担当学年ごとにグループで協議しながら単元計画を作成できたことで実態を基にした話し合いが展開されたことも、効果が大きいと感じた。結果的には、単元づくりの演習は、アクティブ・ラーニングになっていると実感できた。最後には、各教員の指導上に悩みに対して、回答したが、具体的な方策を提示できた内容については満足度が高いようであった。一方で、午後の3時間ほどでは「指導内容の確認」「単元計画の作成」「他グループの確認」全てにじっくり時間を割くのが難しい。

2項 事例2

熊本県でも徳島県同様の趣旨で女性の教員のみを対象として実施した。研修に参加する教員からは、事前に以下のような授業の課題や研修への要望が挙げられた。

1 研修に対する要望

<体づくり運動について>

- ・子どもたちが楽しめる基本的な動きを知りたい
- ・体づくり運動の活動内容をたくさん知りたい
- ・柔軟性を高めるにはどうしたらいいか
- ・高学年でも楽しんで意欲的に取り組むことのできる体づくり運動
- ・1時間の授業の流れ
- ・発達段階に応じた系統的な指導のあり方

<体育の授業・指導方法について>

- ・体育の授業の具体的な流れについて学びたい
- ・模範演技ができない
- ・児童の興味関心を高めるオリエンテーションのやり方
- ・子どもの興味・関心・意欲を引き出す体育学習の授業づくりについて
- ・全体に対して、的確な指示(短い言葉等)等児童への指示の方法や支援の言葉かけなど
- ・実技を身に付けさせるための指導方法等
- ・特に運動場で体育を行うときの準備。(コートのライン引きなど)
- ・体育指導力を高めたいが、その機会がない
- ・体育における学習訓練が徹底できない
- ・低学年児童への指示の仕方
- ・少人数学級でゲームを行う場合のルール等の工夫
- ・最新の体育授業のスキルを高めたい

<個に応じた指導、苦手な子への支援や声かけ、場づくり>

- ・能力差があるため個に応じた課題の持たせ方や指導方法
- ・上手な児童とそうでない児童の個人差への対応

<めあて学習・課題解決学習について>

- ・みんなで考えを出し合い、学習を深めるためのいい方法はないか悩んでいる

<運動量の確保について>

- ・児童数が多い学級での運動量の確保
- ・児童の体力を高めるとともに、運動に親しむことができる授業づくりについて

<評価について>

- ・評価の在り方、方法について教えてほしい

<学習資料やカードの活用など>

- ・体育カードの効果的な活用方、評価の基準

2 実施日

研修は、平成28年8月12日(金)に実施した。

3 対象

対象者は、熊本県内小学校教諭22名の体育の授業を実施するにあたって苦手意識を持つ

女性教員であった。

4 研修内容

研修内容は、体づくり運動(多様な動きをつくる運動(遊び))であった。

5 実際の研修

実際の研修の内容及び使用した用具は、下図(図Ⅱ-2)のとおりである。

内 容	用 具
体育館で用具の点検、準備 会場確認 流れの確認等 ○流れの説明 あいさつ、自己紹介、本日の流れ ○体ほぐしの運動 ①自己紹介ゲーム ②ほぐし1 「猛獣狩り」 ③ほぐし2 リズムで遊ぼう ◎多様な動きをつくる運動(遊び) ○プレゼン・・・多様な動きの考え方 ※プレゼンテーションを実施 ○4つの動きの確認・・・一斉型 ・バランス ・移動 ・力試し ・用具操作 ○組み合わせを考えよう ・4人組・・・とっておきの組み合わせの運動をつくる(思考・判断) ※何を組み合わせたか ・兄弟グループで、紹介して一緒にやってみる — 休 憩 — ○学習指導要領と教材解釈(午前のまとめ) ※プレゼンテーションを実施 ・学習指導要領の概要・・・資料の説明 ・教材の工夫 ・指導内容の明確化 ・誰でも学習できる状況(易しい=個に応じた学習) ・課題解決的(児童が自ら考える)に行う。 ※映像を見せる ○グループ編成 低(1年、2年)、中学年(3年、4年)・・・自己紹介 ・体づくり運動での悩みなど・・・意見交換 → ワークシート ○ワークショップの説明 ※午前の実技研から授業づくりを考える 作業1 指導内容の確認・・・実態を踏まえる ・小学校学習指導要領解説体育編から指導内容の確認 作業2 運動を決める ※運動の組み合わせ方を例で示す	リズム太鼓 1つ 新聞紙 多数 ガムテープ プロジェクター スクリーン 4つの場 短なわ 長なわ ドッジボール 平均台 フラフープ 長なわ カラーコーン

<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールの確認 → ワークシートへ ・ 約束事の確認 <p>作業3 単元を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6時間扱い 2段階で考える サンプルを手がかりに→拡大コピー <p>○各グループの作成した計画を視察して回る</p> <p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループのメモから解説 <p>終了</p>	
---	--

図 II-2 実際の研修の内容及び使用した用具(7時間プログラム 事例2)

6 研修プログラムの効果

本研修プログラムの効果は、受講生が研修後に実施したアンケート調査、及び、研修を実施した講師の印象の点から検討する。

(1) 受講生のアンケート結果

表II-2は、受講生の研修終了時のアンケート調査結果を示している。回答は、7項目について理解ができたかどうかについて「とてもそう思う」から「全く思わない」の5段階で求め、その人数及び割合を算出した。

表 II-2 受講生のアンケート調査結果

		とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
Q1 学習指導要領について理解ができた	合計(n=22)	9	40.91	13	59.09	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q2 領域の考え方について理解ができた	合計(n=22)	10	45.45	12	54.55	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q3 指導内容についての理解ができた	合計(n=22)	15	68.18	7	31.82	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q4 教材について理解ができた	合計(n=22)	11	50.00	10	45.45	1	4.55	0	0.00	0	0.00
Q5 指導方法について理解ができた	合計(n=22)	12	54.55	10	45.45	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q6 単元計画づくりについて理解ができた	合計(n=22)	13	59.09	9	40.91	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q7 動きのポイントについて理解ができた	合計(n=22)	9	40.91	12	54.55	1	4.55	0	0.00	0	0.00

(2) 講師の印象

実技研修では、県教委の要望の高かった体づくり運動を取り上げた。しかし、全てを行うと内容が多すぎ、時間的に困難であることから、多様な動きをつくる運動を中心に行った。また、実技研修の初めには体ほぐしの運動をしっかりと行い、研修生同士のコミュニケーションを図るとともに、体ほぐしの運動の趣旨「交流」「調整」「気づき」について、実感を伴った理解ができるように努めた。このことにより研修のしやすさが高まったように思う。

多様な動きをつくる運動の実技研修では、基本的な内容を理解できるよう一つ一つの動きを丁寧に取り上げた。それを基本にグループ単位で動きを工夫する内容を盛り込んだ。このことにより、交流が促進されるとともに、自分の知識を駆使してアクティブ・ラーニング的な研修ができた。女性同士の研修にしたことで、思いを素直に出し合いやすい雰囲気であると感じられた。

午後の演習も基本的な指導内容や指導の原則を確認したあとは、グループ単位でアクティブ・ラーニング的に単元づくりの研修を進めたが、個別の作業に比べ、多様な考えで意見交換がなされた。多様な動きをつくる運動は、教員が子供のころに経験していないため、理解するまでに時間がかかる。そのため7時間とはいえ、深い理解には十分な時間ではないが、基本的な情報は確認できたのではないかと感じた。

3項 事例3

徳島県において、参加対象を女性教員のみとし、研修内容を変えて行った2回目である。8月に実施した熊本県の研修を基にして修正を行い、実施した。

なお、事前に研修に参加する小学校教員から挙げられた主な指導上の課題や研修への要望は以下の通りである。

1 研修に対する要望

<体づくり運動について>

- ・体づくり運動のレパトリーが全然ないので、いろいろと教えていただきたい
- ・体づくり運動だけで1時間の授業をするよりも、導入に短時間で済むことが多い。短時間で楽しく、体に効果がある運動を教えていただきたい
- ・子どもの体力向上につながる体育授業の展開について
- ・体づくり運動の具体的内容が思い浮かばない。教科書やハンドブックを見ても、それがどんな運動なのかピンとこない
- ・体づくり運動の具体例や活動中の教師から児童への言葉かけについて

<体育の授業・指導方法について>

- ・授業展開や基本的な指導の仕方、場の設定等について勉強させていただきたい
- ・単元学習の流れがわからない
- ・1単位時間の学習の進め方を教えていただきたい
- ・自分の体力がおとろえているため、お手本を見せることが難しくなっています
- ・ペアやグループなど友だちと一緒に楽しんだり作戦を立てて話し合ったりするなど、コミュニケーションを深める手立てや指導の工夫
- ・運動の種類に応じた準備体操、ストレッチ(マット運動の時は首や手首を伸ばした方がよいなど・・・)を教えていただきたい
- ・児童への声かけややる気を引き出す工夫
- ・研修をいつも楽しみにしている。運動が苦手なので、研修を通して指導法を学びたい

<個に応じた指導、苦手な子への支援や声かけ、場づくり、安全管理について>

- ・安全管理について知りたい
- ・運動の得意なことそうでない子が一緒に楽しめる工夫を教えていただきたい
- ・体が硬い子ども、運動に苦手意識のある子どもへの指導
- ・子どもが興味をもって取り組む場の設定(どんな種類をどれくらい)

<学習資料やカードの活用などについて>

- ・学習の振り返り、記録、ワークシートをどのようにしたらよいか

2 実施日

研修は、平成29年1月5日(木)に実施した。

3 対象

対象者は、徳島県内小学校教諭50名の体育の授業を実施するにあたって苦手意識を持つ女性教員(中学校3名、高等学校1名の教員も含む)であった。

4 研修内容

研修内容は、体づくり運動(多様な動きをつくる運動(遊び))であった。

5 実際の研修

実際の研修の内容及び使用した用具は、下図(図Ⅱ-3)のとおりである。

内 容	用 具
<p>体育館で用具の点検、準備 会場確認 流れの確認等 開会行事 ○流れの説明 あいさつ、自己紹介、本日の流れ ○準備運動 ○集団行動 ○体ほぐしの運動 ①風船を使って ②大三じいさんとがん ③塩もみ、マッサージ</p> <p>※新聞紙の活用を紹介</p> <p>◎多様な動きをつくる運動(遊び) ○プレゼンテーション・・・多様な動きの考え方 ※プレゼンテーションを実施</p> <p>○4つの動きの確認・・・一斉型 ・バランス ・移動 ・力試し ・用具操作</p> <p>○組み合わせを考えよう ・グループごとに、組み合わせの運動をつくる ・兄弟グループで、紹介して一緒にやってみる</p> <p>— 昼 食 休 憩 —</p> <p>○学習指導要領と教材解釈(午前のまとめ) ※プレゼンテーションを実施する ・学習指導要領の概要・・・資料の説明 ・教材の工夫 ・指導内容の明確化 ・誰でも学習できる状況(易しい=個に応じた学習) ・課題解決的(児童が自ら考える)に行う。 ※映像を見せる</p> <p>○グループ編成 低(1年、2年)、中学年(3年、4年)・・・自己紹介 ・体づくり運動での悩みなど・・・意見交換 → ワークシート</p> <p>○ワークショップの説明 ※午前の実技研から授業づくりを考える</p> <p>作業1 指導内容の確認・・・実態を踏まえる ・小学校学習指導要領解説体育編から指導内容の確認</p> <p>作業2 運動を決める・・・多様な動きをつくる運動遊びパンフ参考</p>	<p>リズム太鼓 1つ</p> <p>新聞紙 多数 ガムテープ</p> <p>プロジェクター スクリーン 簡単なプレゼン</p> <p>4つの場</p> <p>短なわ 長なわ ドッジボール 平均台 フラフープ 長なわ カラーコーン ぞうきん</p>

<p>※単元計画の大枠は提示する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束事の確認 <p>作業3 単元を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6時間扱い 2段階で考える サンプルを手がかりに <p>○各グループから単元計画づくりの考えを発表</p> <p>質疑応答・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループのメモから解説 <p>終了</p>	
--	--

図 II-3 実際の研修の内容及び使用した用具(7時間プログラム 事例3)

6 研修プログラムの効果

本研修プログラムの効果は、受講生が研修後に実施したアンケート調査、及び、研修を実施した講師の印象の点から検討する。

(1) 受講生のアンケート結果

表II-3は、受講生の研修終了時のアンケート調査結果を示している。回答は、7項目について理解ができたかどうかについて「とてもそう思う」から「全く思わない」の5段階で求め、その人数及び割合を算出した。

表 II-3 受講生のアンケート調査結果

	とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
Q1 学習指導要領について理解ができた 合計(n=55)	25	45.45	30	54.55	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q2 領域の考え方について理解ができた 合計(n=56)	30	53.57	26	46.43	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q3 指導内容についての理解ができた 合計(n=56)	33	58.93	22	39.29	0	0.00	1	1.79	0	0.00
Q4 教材について理解ができた 合計(n=56)	36	64.29	20	35.71	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q5 指導方法について理解ができた 合計(n=56)	30	53.57	26	46.43	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q6 単元計画づくりについて理解ができた 合計(n=56)	25	44.64	29	51.79	2	3.57	0	0.00	0	0.00
Q7 動きのポイントについて理解ができた 合計(n=56)	15	26.79	34	60.71	5	8.93	2	3.57	0	0.00

(2) 講師の印象

徳島県においては、2回目の研修を実施した。夏の研修での評判を口コミで伝えてくれたようで、夏の参加者と同一の学校から多くの参加者が見られ、新年早々であるにもかかわらず、参加人数は夏の2倍であった。内容としては、熊本県での研修を基に進めたが、午後の単元づくりにおいては、一層、講師側から学年に応じたモデルの枠組みを示したことで、演習がスムーズになったと感じた。午前の実技研修においては、事前のアンケートで準備運動に関する要望も多かったことから、集団行動も取り入れたが、この評判はよかったようである。多様な動きをつくる運動については、内容が多いため、基本的な情報提供をした上で、対話的で深い学びとなるようグループごとに動きづくりを行うことで意見交換が活発になった。女性の研修では特に交流できる場を多く作ることがポイントであると実感した。

4項 事例4

東京都において、体育の授業をしっかりと学びたい小学校教員(男女)を対象に理論研修及び実技研修を行った。この研修は平成25年度から実施しているが、他の研修との違いとして、実技研修を全体の75%に設定している点である。午前中の1時間半ほどで体育全体に関する理論研修を実施し、それ以降は実技研修の中に、プレゼンテーションで必要な情報を提供している。なお、単元づくりの研修は行っていない。

1 実施日

研修は、平成28年8月1日(月)であった。

2 対象

対象は、東京都内小学校教諭62名の体育の授業を実施するにあたって苦手意識を持つ教員(男女)であった。

3 研修内容

研修内容は、体づくり運動(体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動(遊び))、器械運動系、及び、ボール運動系であった。

4 実際の研修

実際の研修の内容及び使用した用具は、下図(図Ⅱ-4)のとおりである。

内 容	用 具
<理論研修> ○自己紹介、研修の趣旨の確認 ○学習指導要領と教材解釈(午前のまとめ) ※プレゼンテーションを実施する <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の概要・・・資料の説明 ・教材の工夫 ・指導内容の明確化 ・誰でも学習できる状況(易しい=個に応じた学習) ・課題解決的(児童が自ら考える)に行う。 ○午後に実技研修で取り上げる領域の考え方について <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動(体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動)の考え方 ・器械運動の考え方 ・ボール運動系 休 憩	リズム太鼓 1つ リズムのいい音楽 ゆったりとした音楽
<実技研修> ○流れの説明 「体づくり運動とゲーム・ボール運動に関する実技研のねらいの説明」 ○準備運動 ○体ほぐしの運動 ①自己紹介ゲーム ②背中にタッチ(片手握手)両足 ③ミラーリング ④大蔵じいさんとがん	マット・踏み切り板

<p>④ 塩もみ、マッサージ</p> <p>○器械運動系</p> <p>①感覚づくりの運動</p> <p>②後転、側方倒立回転の場のつくりと補助等</p> <p>③できばえがわかる教具</p> <p style="text-align: center;">—— 昼 食 ——</p> <p>※新聞紙で作成 棒・ボール、フラフープ、平面、縦切り</p> <p>○多様な動きをつくる運動</p> <p>新聞紙を使って・・・グループ(6人)で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3枚棒・・・棒取り・2人組、4人組(移動) ラダー・・・10人 等間隔、異感覚(移動) 引っ張る・・・2人組(力試し) ・縦切り・・・3段階走り・・・周りを走る(移動)・・・2人組 ・2枚板・・・落ちずに渡ろう・・・ジャンプ、ケンケン、後ろなど(バランス) 体ドンじゃんけん・・・6人チーム(バランス) ・ボール、フリスビー・・・キャッチボール、いろいろな取り方・・・(操作) <p>○ボール運動(ゲーム)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・型に応じたゲームが分類された。ここではゴール型を取り上げる。</p> <p>・授業作りにはいくつかポイントがある。</p> <p>① 易しいゲームをする。誰でも取り組めるプレーが易しくできるゲーム。</p> <p><技能が易しい、判断が易しい、ボールにたくさん触れるなど></p> <p>② ボール運動では、ボール操作だけでなく、ボールを持たないときの動き</p> <p><空間(スペース)をいかに制するか></p> </div> <p>○易しいバスケットボール</p> <p>ゴールの思考を入れたゲーム</p> <p>休 憩</p> <p>※ネット型(プレルボール)の準備</p> <p>○ネット型ゲーム「プレルボール」・・・白旗</p> <p>①「ネット型」について</p> <p>②「プレルボール・・・4コート 4人×16チーム</p> <p>1 チーム練習</p> <p>2 ノーマルゲーム(4対4 げんこつ)</p> <p>③「3対3 パーや両手OK」</p> <p>④「キャッチトス プレル」</p> <p>⑤「アタック プレル」</p> <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導内容の明確化 ・誰でも学習できる状況(易しい=個に応じた学習) 	<p>新聞紙</p> <p>ドッジボールビブス 得点板4</p> <p>ソフトバレーボール16個</p>
--	--

・課題解決的(児童が自ら考える)を行う。 終了	
----------------------------	--

図 II-4 実際の研修の内容及び使用した用具(7時間プログラム 事例4)

5 研修プログラムの効果

本研修プログラムの効果は、受講生が研修後に実施したアンケート調査、及び、研修を実施した講師の印象の点から検討する。

(1) 受講生のアンケート結果

表 II-4 は、受講生の研修終了時のアンケート調査結果を示している。回答は、7項目について理解ができたかどうかについて「とてもそう思う」から「全く思わない」の5段階で求め、その人数及び割合を算出した。

表 II-4 受講生のアンケート調査結果

		とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
Q1 学習指導要領について理解ができた	合計(n=62)	14	22.58	39	62.90	9	14.52	0	0.00	0	0.00
Q2 領域の考え方について理解ができた	合計(n=62)	19	30.65	34	54.84	8	12.90	1	1.61	0	0.00
Q3 指導内容についての理解ができた	合計(n=61)	43	70.49	16	26.23	2	3.28	0	0.00	0	0.00
Q4 教材について理解ができた	合計(n=61)	41	67.21	20	32.79	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q5 指導方法について理解ができた	合計(n=61)	34	55.74	27	44.26	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q6 単元計画づくりについて理解ができた	合計(n=60)	13	21.67	30	50.00	17	28.33	0	0.00	0	0.00
Q7 動きのポイントについて理解ができた	合計(n=60)	16	26.67	31	51.67	12	20.00	1	1.67	0	0.00

(2) 講師の印象

東京都では経験年数の少ない教員が大勢を占めるようになり、教科書のない体育の研修の必要性は、どの県よりも高い。研修の参加者は若手の教員が多いため、理論よりも実技を多めにした。領域を3つ扱い、広く浅く理解するよう心がけた。経験の浅い教員が多いため、

このような研修で多くの領域の基礎的な情報を得られることで満足感を得られるようである。他の研修と違い、材料提供が中心になってしまうことは課題である。

5項 事例5

福岡県において、体育の授業をしっかりと学びたい小学校教員(男女)を対象に実技研修及び授業づくりの演習を行った。この研修は平成26年度から実施しており、毎年改善を重ねてきている。これまでは1日ばかりで、実技研修を行い、ひたすら材料提供をしてきたが、今回の研修では授業づくりに主眼を置いた。

1 実施日

研修は、平成28年8月3日(水)に実施した。

2 対象

対象者は、福岡県内小学校教諭62名の体育の授業を実施するにあたって苦手意識を持つ教員(男女)であった。

3 研修内容

研修内容は、体づくり運動(体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動(遊び))であった。

4 実際の研修

実際の研修の内容及び使用した用具は、下図(図Ⅱ-5)のとおりである。

内 容	用 具
体育館で用具の点検、準備 会場確認 流れの確認等 ○流れの説明 あいさつ、自己紹介、本日の流れ ○体ほぐしの運動 ①自己紹介ゲーム ②ほぐし1 「猛獣狩り」 ③ほぐし2 リズムで遊ぼう ④風船サッカー ⑤塩もみ、マッサージ ○多様な動きをつくる運動(遊び) ・多様な動きの考え方 ※プレゼンテーションを実施 ○4つの動きの確認・・・一斉型 ・バランス ・移動 ・力試し ・用具操作 ○組み合わせを考えよう ・4人組・・・とっておきの組み合わせの運動をつくる(思考・判断) ※何を組み合わせたか ・兄弟グループで、紹介して一緒にやってみる — 休 憩 — ○学習指導要領と教材解釈(午前のまとめ) ※プレゼンテーションを実施	リズム太鼓 1つ 新聞紙 多数 ガムテープ プロジェクター スクリーン 4つの場 短なわ 長なわ ドッジボール 平均台 フラフープ 長なわ カラーコーン

<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の概要・・・資料の説明 ・教材の工夫 ・指導内容の明確化 ・誰でも学習できる状況(易しい＝個に応じた学習) ・課題解決的(児童が自ら考える)に行う。 <p>※映像を見せる</p> <p>○グループ編成 低(1年、2年)、中学年(3年、4年)・・・自己紹介 ・体づくり運動での悩みなど・・・意見交換 → ワークシート</p> <p>○ワークショップの説明 ※午前の実技研から授業づくりを考える</p> <p>作業1 指導内容の確認・・・実態を踏まえる ・小学校学習指導要領解説体育編から指導内容の確認</p> <p>作業2 運動を決める ※運動の組み合わせ方を例で示す ・ルールの確認 → ワークシートへ ・約束事の確認</p> <p>作業3 単元を作る ・6時間扱い 2段階で考える サンプルを手がかりに→拡大コピー</p> <p>○各グループの作成した計画を視察して回る</p> <p>質疑応答 ・各グループのメモから解説</p> <p>終了</p>	
--	--

図 II-5 実際の研修の内容及び使用した用具(7時間プログラム 事例5)

5 研修プログラムの効果

本研修プログラムの効果は、受講生が研修後に実施したアンケート調査、及び、研修を実施した講師の印象の点から検討する。

(1) 受講生のアンケート結果

表II-5は、受講生の研修終了時のアンケート調査結果を示している。回答は、7項目について理解ができたかどうかについて「とてもそう思う」から「全く思わない」の5段階で求め、その人数及び割合を算出した。

表 II-5 受講生のアンケート調査結果

		とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
Q1	学習指導要領について理解ができた 合計(n=97)	34	35.05	58	59.79	4	4.12	1	1.03	0	0.00
Q2	領域の考え方について理解ができた 合計(n=97)	42	43.30	49	50.52	5	5.15	1	1.03	0	0.00
Q3	指導内容についての理解ができた 合計(n=97)	48	49.48	46	47.42	3	3.09	0	0.00	0	0.00
Q4	教材について理解ができた 合計(n=98)	42	42.86	50	51.02	6	6.12	0	0.00	0	0.00
Q5	指導方法について理解ができた 合計(n=98)	39	39.80	54	55.10	5	5.10	0	0.00	0	0.00
Q6	単元計画づくりについて理解ができた 合計(n=98)	34	34.69	56	57.14	8	8.16	0	0.00	0	0.00
Q7	動きのポイントについて理解ができた 合計(n=97)	18	18.56	47	48.45	27	27.84	5	5.15	0	0.00

(2) 講師の印象

毎年、多くの出席者があり、抽選で参加者を決めてもらっているほどである。今年度は熊本地震の関係でメインアリーナが使えず、空調のない高等学校での研修であったため、運動量はやや控えめであった。実技研修の前半は、講師側からの材料提供であったが、終盤にはグループごとに運動を工夫してもらう時間とした。対象が教師のせい、指導経験を基に率直な意見を出し合うことでグループでの研修が活性化するようである。本県では午後の授業づくりは初めて行ったが、指導内容を再確認でき、授業づくりの原則を学べたことは好評だったようである。

6項 事例6

福岡県において、体育の授業をしっかり学びたい小学校教員(男女)を対象に実技研修及び授業づくりの演習を行った。前日に続いてであるが、扱う領域が違い、参加する受講生も重複はしていない。7月に実施した徳島県での研修を微修正して行った。

1 実施日

研修は、平成 28 年 8 月 4 日(木)に実施した。

2 対象

対象者は、福岡県内小学校教諭 96 名の体育の授業を実施するにあたって苦手意識を持つ教員(男女)であった。

3 研修内容

研修内容は、ボール運動系(ネット型(ソフトバレーボール))であった。

4 実際の研修

実際の研修の内容及び使用した用具は、下図(図Ⅱ-6)のとおりである。

内 容	用 具
体育館で用具の点検、準備 会場確認 流れの確認等 開会行事 ○流れの説明 あいさつ、自己紹介、本日の流れ ※準備運動 ○自己紹介ゲーム ※体ほぐしの運動 ○体ほぐしの運動 ①自己紹介ゲーム ②背中にタッチ(片手握手)両足 ③ボールでほぐし ○ネット型の研修 ※場の準備(全員)・・・・・・受講生も全員で用意(ネット張り) ◎ネット型ゲームの授業づくり ○4人対4人のソフトバレーボールゲーム ※このゲームでの課題を明らかにする ○工夫1(中学年でもできるように) ※全員の学習機会の保障、判断の簡易化 ―― 休 憩 ―― ○工夫2(プレーを易しく) ※技能を易しくし、関わりを増やす	リズム太鼓 1つ 風船 ビブス8色 バトミントンコー ト分のネット ソフトバレーボー ル コートに1つ

<p>○工夫3(ちょっと難しく) ※レシーブ技能を取り入れる</p> <p>○工夫4(更に中学校に近く) ※徐々にバレーボールに近づける</p> <p>工夫5(3年生や低学年でもできるように) ・平面で捉えるネット型ゲーム</p> <p>昼食休憩</p> <p>○学習指導要領と教材解釈(午前のまとめ) ※プレゼンテーションを実施 ・学習指導要領の概要・・・資料の説明 ・教材の工夫 ・指導内容の明確化 ・誰でも学習できる状況(易しい=個に応じた学習) ・課題解決的(児童が自ら考える)に行う。 ※映像を見せ理解を深める</p> <p>○グループ編成 ・ゲーム、ボール運動での悩みなどの意見交換</p> <p>○ワークショップの説明 ※午前の実技研から授業づくりを考える</p> <p>作業1 指導内容の確認 ・小学校学習指導要領解説体育編からの見取り(技能、態度、思考・判断について)</p> <p>作業2 教材を決める ・ルールの確認 ・約束事の確認</p> <p>作業3 単元を作る ・6～8時間扱い 2段階で考える サンプルを手がかりに模造紙へ作成</p> <p>○各グループから作成した単元計画の考え方を発表</p> <p>質疑応答 ・各グループのメモから解説</p> <p>終了</p>	<p>パソコン プロジェクター スクリーン</p>
--	-----------------------------------

図 II-6 実際の研修の内容及び使用した用具(7時間プログラム 事例6)

5 研修プログラムの効果

本研修プログラムの効果は、受講生が研修後に実施したアンケート調査、及び、研修を実施した講師の印象の点から検討する。

(1) 受講生のアンケート結果

表 II-6 は、受講生の研修終了時のアンケート調査結果を示している。回答は、7項目につ

いて理解ができたかどうかについて「とてもそう思う」から「全く思わない」の5段階で求め、その人数及び割合を算出した。

表 II-6 受講生のアンケート調査結果

	とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
Q1 学習指導要領について理解ができた 合計(n=56)	31	55.36	23	41.07	2	3.57	0	0.00	0	0.00
Q2 領域の考え方について理解ができた 合計(n=57)	32	56.14	22	38.60	3	5.26	0	0.00	0	0.00
Q3 指導内容についての理解ができた 合計(n=57)	46	80.70	11	19.30	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q4 教材について理解ができた 合計(n=57)	46	80.70	11	19.30	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q5 指導方法について理解ができた 合計(n=57)	39	68.42	17	29.82	1	1.75	0	0.00	0	0.00
Q6 単元計画づくりについて理解ができた 合計(n=56)	37	66.07	18	32.14	1	1.79	0	0.00	0	0.00
Q7 動きのポイントについて理解ができた 合計(n=55)	29	52.73	26	47.27	0	0.00	0	0.00	0	0.00

(2) 講師の印象

これまでで最大の参加人数であるため、補助の学生をつけて行った。授業時数の多いボール運動系でもネット型はあまり経験がなく、教材づくりの工夫がわからないといった受講生が多かった。そのため、学年に応じた実技研修は新鮮なようであった。また、授業づくりの演習をすることで指導内容を確認することができたようである。これまでは、ゲームをすることで終始していたが、身に付けるべき指導内容を確認できたようである。それに伴い、単元づくりをする上で学習過程の段階を意識できていた。

2章 5時間プログラムの設定と実際

1節 5時間プログラムのねらいと留意点

5時間のプログラムでは、単元計画づくりの演習の時間を十分確保することは難しいことから、次の2つのプログラムで実施した。1つ目は、理論を含めた実技研修を2つ実施するパターンである。1つの実技研修は2時間から2時間半ほどで実施できるため、このように組み合わせた。広く浅く、研修を実施する場合には有効である。2つ目は、授業づくりや実技研修を行う領域の理論をじっくり行った上で、実技研修を行うパターンである。いずれにせよ、7時間研修のように単元計画づくりを研修に入れ込むことは難しい。

2節 5時間プログラムの実際

1項 事例1

山口県で体育の授業に苦手意識のある教員(男女とも)を対象に実技研修を実施した。山口県では、以前から同様の研修会を継続的に実施しており、教員の中にはこれまでもこのような研修会に複数回参加している者もいる。研修は2種類の実技研修を実施した。

1 実施日

研修は、平成28年8月17日(水)に実施した。

2 対象

対象者は、山口県内小学校教諭63名の体育の授業を実施するにあたって苦手意識を持つ教員(男女)であった。

3 研修内容

研修内容は、体づくり運動(多様な動きをつくる運動(遊び))であった。

4 実際の研修

実際の研修の内容及び使用した用具は、下図(図Ⅱ-7)のとおりである。

内 容	用 具
<p>○あいさつ</p> <p>○流れの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講話→実技→講話 <p>○プレゼン1(学習指導要領の解説) ※プレゼンテーションを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の授業で大切なこと ・ 発達の段階を踏まえる ・ 体づくり運動について <p><実技研修1></p> <p>○体ほぐしの運動</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自己紹介ゲーム ②まねっこ動物 ③大三じいさんとがん <p>○多様な動きをつくる運動(遊び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの動きの確認・・・一斉型 <ul style="list-style-type: none"> ・ バランスをとる運動 ・ 体を移動する運動 ・ 力試しの運動 ・ 用具を操作する運動 <p>○組み合わせを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4人組・・・組み合わせの運動をつくる(思考・判断) ※兄弟グループで、紹介して一緒にやってみる <p style="text-align: center;">——— 昼食 ———</p> <p>実技研修2</p> <p>○「ゴール型(ゴール型)」</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ボール運動」について ※プレゼンテーションを実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボール運動の特性 ・ 教材の工夫 ・ 教師のかかわり方 ・ 場の設定など ②フラッグフットボール <ul style="list-style-type: none"> ・ チーム作り ・ 基本的なルール、動き方の確認 ・ 作戦の立て方 ・ ゲーム 作戦の確認 ゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・ 良い動きの確認 ・ 教師のかかわり方とまとめ <ol style="list-style-type: none"> ③研修全体のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業づくりについて ・ 質疑応答など <p>終了</p>	<p>プロジェクター</p> <p>リズム太鼓 1つ</p> <p>のりのよい音楽</p> <p>ソフトハンドボール ビブス</p>

図 II-7 実際の研修の内容及び使用した用具(5時間プログラム 事例1)

5 研修プログラムの効果

本研修プログラムの効果は、受講生が研修後に実施したアンケート調査、及び、研修を実施した講師の印象の点から検討する。

(1) 受講生のアンケート結果

表 II-7 は、受講生の研修終了時のアンケート調査結果を示している。回答は、7 項目について理解ができたかどうかについて「とてもそう思う」から「全く思わない」の5段階で求め、その人数及び割合を算出した。

表 II-7 受講生のアンケート調査結果

	とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
Q1 学習指導要領について理解ができた 合計(n=64)	29	45.31	31	48.44	3	4.69	1	1.56	0	0.00
Q2 領域の考え方について理解ができた 合計(n=64)	35	54.69	28	43.75	1	1.56	0	0.00	0	0.00
Q3 指導内容についての理解ができた 合計(n=64)	43	67.19	19	29.69	2	3.13	0	0.00	0	0.00
Q4 教材について理解ができた 合計(n=64)	40	62.50	24	37.50	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q5 指導方法について理解ができた 合計(n=64)	40	62.50	22	34.38	2	3.13	0	0.00	0	0.00
Q6 単元計画づくりについて理解ができた 合計(n=63)	19	30.16	35	55.56	7	11.11	2	3.17	0	0.00
Q7 動きのポイントについて理解ができた 合計(n=63)	19	30.16	34	53.97	9	14.29	1	1.59	0	0.00

(2) 講師の印象

単元づくりをじっくり行うには時間が十分ではないため、2領域について、領域の理解と実技を通じた研修を実施した。扱った領域についての関心が高く、特にフラッグフットボールは初めて接した教員も多く、積極的に取り組む様子が見られた。しかし、実技研修を行ったことで、教材の理解は進んだように感じられるが、どうしても材料提供にとどまり、授業づくりの理解は不十分である。次年度は、短い時間でも、単元づくりの大枠の理解や具体的な指導内容の確認などができるような研修を考えてみたい。

2項 事例2

鳥取県で体育の授業に苦手意識のある教員(男女とも)を対象に実技研修を実施した。鳥根県から3名の参加者があった。研修は午前中に理論研修、午後は実技研修を行った。時間配分としては、実技研修に約2倍の時間をかけた。

1 実施日

研修は、平成28年9月12日(月)に実施した。

2 対象

対象者は、鳥取県内小学校教諭21名の体育の授業を実施するにあたって苦手意識を持つ教員(男女)(鳥根県から3名の教員を含む)であった。

3 研修内容

研修内容は、体づくり運動(多様な動きをつくる運動(遊び))であった。

4 実際の研修

実際の研修の内容及び使用した用具は、下図(図Ⅱ-8)のとおりである。

内 容	用 具
<p>○あいさつ ○流れの説明 ・講話→実技 の流れとする ○プレゼン1(学習指導要領の解説) ・体育の授業で大切なこと ・発達の段階を踏まえる ・体づくり運動について (思考・判断を考える)</p> <p>休憩(昼食)</p> <p>○体ほぐしの運動 リズムに合わせて スキップ・ギャロップ、手を付ける。手をつないで、3人、4人、 ①自己紹介ゲーム 握手→空中じゃんけんして順番決め・・・10人 スキップ・・・広がる 2人組・・・リズム太鼓</p> <p>②大三じいさんとがん</p> <p>— 小休憩 — ※準備・・・2枚棒、縦切り(3枚)・フリスビー・・・休憩</p> <p>○4つの動きの確認・・・一斉型 <2カ所交代> ・バランス(片桐) ◆平均台ドン体じゃんけん ◆バランス崩し(立って、片足で、座って)</p>	<p>リズム太鼓 1つ</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・移動(和田) <ul style="list-style-type: none"> ◆おねだりじゃんけん・・・動物、いろいろ走り ◆フラフープ跳び越しキャッチ ・力試し(片桐) <ul style="list-style-type: none"> ◆引き相撲 ◆腕立てじゃんけん ・用具操作(和田) <ul style="list-style-type: none"> ◆ボール <ul style="list-style-type: none"> ・同時キャッチボール 時間差キャッチボール ・リアクションキャッチ ・トンネルキャッチ ◆なわいろいろとび(二人) <p>—— 休憩 ——</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新聞紙で工夫してみよう どんな動きが作れるかな・・・3つ作る ○組み合わせを考えよう <ul style="list-style-type: none"> ・6人組・・・とっておきの組み合わせの運動をつくる(思考・判断) ※何を組み合わせたか ・兄弟グループで、紹介して一緒にやってみる ※更に工夫してみる(意見交換) <p>まとめ</p> <p>終了</p>	<p>簡単なプレゼン</p>
--	----------------

図 II-8 実際の研修の内容及び使用した用具(5時間プログラム 事例2)

5 研修プログラムの効果

本研修プログラムの効果は、受講生が研修後に実施したアンケート調査、及び、研修を実施した講師の印象の点から検討する。

(1) 受講生のアンケート結果

表 II-8 は、受講生の研修終了時のアンケート調査結果を示している。回答は、7項目について理解ができたかどうかについて「とてもそう思う」から「全く思わない」の5段階で求め、その人数及び割合を算出した。

表 II-8 受講生のアンケート調査結果

	とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
Q1 学習指導要領について理解できた 合計(n=22)	13	59.09	9	40.91	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q2 領域の考え方について理解できた 合計(n=22)	13	59.09	9	40.91	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q3 指導内容についての理解ができた 合計(n=22)	17	77.27	4	18.18	1	4.55	0	0.00	0	0.00
Q4 教材について理解ができた 合計(n=22)	18	81.82	4	18.18	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q5 指導方法について理解ができた 合計(n=21)	16	76.19	5	23.81	0	0.00	0	0.00	0	0.00
Q6 単元計画づくりについて理解できた 合計(n=22)	3	13.64	17	77.27	2	9.09	0	0.00	0	0.00
Q7 動きのポイントについて理解できた 合計(n=22)	9	40.91	12	54.55	1	4.55	0	0.00	0	0.00

(2) 講師の印象

理論研修と実技研修を1:2の割合で実施した。5時間の時間では演習として単元づくりを入れ込むことは難しいが、取り上げる領域を一つに絞ることで、学習指導要領に関する理解、領域に関する理解はともに、山口県での研修よりも深まった様子である。また、研修の中心を「思考・判断」に絞ったことで、研修の組み立て方や視点の重点を決めやすかった。これは研修を貫くテーマになっていたことから、受講した教員にも伝わりやすかったのではないかと考える。2領域を扱うよりも、授業づくり全体の研修は深まりを感じられた。

3章 分析結果のまとめ

表 II-9 は、今回対象とした 8 回の研修の概要とその成果をまとめたものである。「講師が事前に立てたポイント」に関して、研修後の講師の印象から、達成できていたととらえられる項目に○を付している。「アンケート調査の結果」については、上述の結果からも分かる通り、すべての項目で「そう思う」「思う」のどちらかの回答率が最も高くなっていて、ここではそれを視覚的に示すため、「そう思う」の回答率が最も高かった項目には「◎」、「思う」には「○」を付して示した。

「講師が事前に立てたポイント」からわかるように、7 時間、5 時間の研修ともに、「教材の工夫の仕方」「単元計画・授業計画の作成」「効果的な指導法(技能)」「用具や場づくり」「指導内容の理解」については、どの研修においても、講師の視点から見て、概ね成果を得ることができたととらえることができる。

その論拠は、「アンケート調査の結果」の欄で、多くの設問に「そう思う」と回答した教師の割合が高いことから読み取ることができる。しかし、講師の振り返りにもあったように、「学習指導要領の理解」「単元計画づくりについての理解」といった理論的側面については、「思う」という回答をする教師の割合が高くなっていて、時間的な制約はあるものの、教師のもつべき知識について、どのような研修プログラムを組むことが可能なのかを検討することが課題として残された、加えて「具体的な動きのポイント」についても「思う」と回答する教師の割合が高かったことから、理論的・実践的な研修を通して、どのような活動があれば教師の理解を促進させることができるのかに関して、検討する余地が大いにあるという事実が確かめられた。

表 II-9 8 回の研修の概要及びその成果

事例		1	2	3	4	5	6	7	8
研修概要	開催都道府県	徳島	熊本	徳島	東京	福岡	福岡	山口	鳥取
	受講対象	女性のみ	女性のみ	女性のみ	男女	男女	男女	男女	男女
	受講者数(人)	28	22	56	62	98	57	64	22
	領域	ボール運動系(ネット型)	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	体づくり運動	ボール運動系(ネット型)	体づくり運動・ボール運動系(ゴール型)	体づくり運動
	時間	7時間	7時間	7時間	7時間	7時間	7時間	7時間	5時間
講師が事前に立てたポイント	女性限定の研修効果	○	○	○					
	教材の工夫の仕方	○	○	○	○	○	○	○	○
	単元計画・授業計画の作成	○	○	○	○	○	○	○	○
	効果的な指導法(技能)		○	○	○	○	○	○	○
	用具や場づくり		○	○	○	○	○	○	○
	指導内容の理解	○	○	○	○	○	○		○
	指導上の悩みの共有・解決	○							
	受講者間のコミュニケーション		○	○		○			
	アクティブ・ラーニングとしての研修	○	○	○	○	○	○		
アンケート調査の結果(最も回答率の高かった選択肢を示した「◎」…「そう思う」、○…「少し思う」)	Q1 学習指導要領について理解ができたか	◎	○	○	○	○	◎	○	◎
	Q2 領域の考え方について理解ができたか	◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎
	Q3 指導内容についての理解ができたか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	Q4 教材について理解ができたか	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
	Q5 指導方法について理解ができたか	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
	Q6 単元計画づくりについて理解ができたか	◎	◎	○	○	○	◎	○	○
	Q7 動きのポイントについて理解ができたか	◎	○	○	○	○	◎	○	○

第Ⅲ部 研修プログラムの効果

1章 調査目的及び調査項目、対象、実施期日

より効果的な教員研修の在り方を検討するための資料を収集するために、第Ⅱ部で実施した8回の研修の効果を属性等の観点から検討することを目的に、調査研究を実施した。

調査は、2016(平成28)年7月～2017(平成29)年1月にかけて、東京都、徳島県、鳥取県、山口県、福岡県、熊本県で開催された、体づくり運動領域、ボール運動系領域の講義及び実技研修に参加した教員を対象に実施した。

調査項目としては、調査対象者の属性を把握するための質問として「性別」「教職歴(①～3年、②4～10年、③11～20年、④21年～)」「研究部(市区町村の教育研究会)の所属(①国語、②算数、③理科、④社会、⑤生活、⑥音楽、⑦図画工作、⑧体育、⑨家庭、⑩道徳、⑪その他)」を設定した。

続いて、受講した研修に関する以下の7項目を設定し、それに対して、①とても思う、②少し思う、③どちらでもない、④あまり思わない、⑤全く思わないの5件法で回答を求めた。各項目とも、明確な回答がある場合のみカウントし、それ以外はノーカウントとした。

<研修に関する質問項目>

- 1 学習指導要領について理解ができた
- 2 領域の考え方について理解ができた
- 3 指導内容についての理解ができた
- 4 教材について理解ができた
- 5 指導方法について理解ができた
- 6 単元計画づくりについて理解ができた
- 7 動きのポイントについて理解ができた

表Ⅲ-1は、調査対象者の属性を示している。

性別は、男性が39.71%、女性が60.29%となっていた。これは、徳島県及び熊本県の研修が女性教員限定の研修として実施されたためであった。

教職歴は、～3年が36.52%、4～10年が38.97%、11～20年が13.24%、21年～が11.27%で、教職歴10年未満の教員が75.49%を占めていた。

所属する地域の教育研究会等の教科は、体育部に所属する教員が34.57%と最も多く、次いで国語部13.03%、算数部9.31%となっていた。

このことから、今回の調査対象者は、体育部で体育科を中心に教育研究活動を行っている者が多く、教職歴では若手から中堅の教員が多数受講していたことがわかった。

表 III-1 対象者の属性

		人	%
性別	男性	164	39.71
	女性	249	60.29
	合計	413	100.00
教職歴	～3年	149	36.52
	4～10年	159	38.97
	11～20年	54	13.24
	21年～	46	11.27
	合計	408	100.00
研究部	国語	49	13.03
	算数	35	9.31
	理科	11	2.93
	社会	20	5.32
	生活	14	3.72
	音楽	10	2.66
	図画工作	18	4.79
	体育	130	34.57
	家庭	7	1.86
	道德	20	5.32
	その他	62	16.49
	合計	376	100.00

2章 分析の結果

表Ⅲ-2は、「学習指導要領について理解ができた」かどうかについての回答である。教職歴別に見ると、～10年までの教師は、「少し思う」が最も割合が高かったが(60.27%、51.92%)、11年以上の教師にとっては「とても思う」の割合が最も高くなっていたことが特徴的であった(53.70%、54.00%)。

体育部に所属している教師にとっては、「とても思う」(47.41%)と「少し思う」(46.67%)がほぼ同じ割合であったが、体育部以外の教師にとっては「少し思う」(56.52%)が「とても思う」(39.13%)よりも高い割合を示していた。

これらのことから、教職歴が浅い教師、体育部以外の教師にとっては、学習指導要領の十分な理解の点で課題が残っている様子がうかがえた。

表Ⅲ-2 質問1 学習指導要領について理解ができた

			とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
			人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
教職歴	全体	406	173	42.61	213	52.46	18	4.43	2	0.49	0	0.00
	～3年	149	48	32.88	88	60.27	9	6.16	1	0.68	0	0.00
	4～10年	156	69	44.23	81	51.92	5	3.21	1	0.64	0	0.00
	11～20年	54	29	53.70	23	42.59	2	3.70	0	0.00	0	0.00
	21年～	50	27	54.00	21	42.00	2	4.00	0	0.00	0	0.00
所属部	体育部	135	64	47.41	63	46.67	6	4.44	2	1.48	0	0.00
	体育部以外	253	99	39.13	143	56.52	11	4.35	0	0.00	0	0.00

表Ⅲ-3は、「領域の考え方について理解できた」かどうかについての回答である。この設問についても、教職歴別に見ると、～10年までの教師は、「とても思う」「少し思う」の割合が同程度の割合であったが(～3年：42.18%、49.66%、4～10年：47.13%、49.04%)、11年以上の教師にとっては「とても思う」の割合が最も高くなっていた(62.96%、60.00%)。

体育部に所属している教師にとっては、「とても思う」(57.04%)の割合が高く、体育部以外の教師は「少し思う」(50.20%)が「とても思う」(44.31%)よりも高い割合を示していた。

これらのことから、教職歴が浅い教師、体育部以外の教師にとっては、領域の考え方についての十分な理解の点で課題が残っている様子がうかがえた。

表 III-3 質問2 領域の考え方について理解できた

			とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
			人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
教職歴	全体	408	200	49.02	189	46.32	17	4.17	2	0.49	0	0.00
	～3年	147	62	42.18	73	49.66	11	7.48	1	0.68	0	0.00
	4～10年	157	74	47.13	77	49.04	5	3.18	1	0.64	0	0.00
	11～20年	54	34	62.96	19	35.19	1	1.85	0	0.00	0	0.00
	21年～	50	30	60.00	20	40.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
所属部	体育部	135	77	57.04	53	39.26	5	3.70	0	0.00	0	0.00
	体育部以外	255	113	44.31	128	50.20	12	4.71	2	0.78	0	0.00

表III-4は、「指導内容についての理解ができた」かどうかについての回答である。この設問については、教職歴別に関わらず、「とても思う」が最も高い割合を示していた。中でも、11年以上のベテラン教師の割合が高くなっていた(61.64%、64.33%、75.93%、72.00%)。

所属部会別に見ると、体育部に所属している教師でも体育部以外の教師でも「とても思う」が最も高い割合となっていた(69.63%、60.63%)。

これらのことから、今回対象とした研修を通して、回答者は、今回の研修で取り上げた領域の指導内容をよく理解できていたと感じていることがわかった。

表 III-4 質問 3 指導内容についての理解ができた

			とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
			人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
教職歴	全体	407	268	65.85	129	31.70	9	2.21	1	0.25	0	0.00
	～3年	146	90	61.64	50	34.25	5	3.42	1	0.68	0	0.00
	4～10年	157	101	64.33	54	34.39	2	1.27	0	0.00	0	0.00
	11～20年	54	41	75.93	12	22.22	1	1.85	0	0.00	0	0.00
	21年～	50	36	72.00	13	26.00	1	2.00	0	0.00	0	0.00
所属部	体育部	135	94	69.63	36	26.67	5	3.70	0	0.00	0	0.00
	体育部 以外	254	159	60.63	90	35.43	4	1.57	1	0.39	0	0.00

表III-5は、「教材について理解ができた」かどうかについての回答である。この設問についても、教職歴別に関わらず、「とても思う」が最も高い割合を示していた。中でも、21年以上のベテラン教師の割合が高くなっていたことが特徴的であった(58.22%、64.33%、66.67%、72.55%)。

所属部会別に見ると、体育部に所属している教師でも体育部以外の教師でも、「とても思う」が最も高い割合となっていた。特に、体育部に所属する教師の方が、その割合が高い傾向にあったといえる(68.38%、60.63%)。

これらのことから、今回対象とした研修を通して、今回取り上げた領域の教材について十分な理解が得られたとする者が多数見られたという事実が確かめられた。

表 III-5 質問 4 教材について理解ができた

			とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
			人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
教職歴	全体	408	259	63.48	142	34.80	7	1.72	0	0.00	0	0.00
	～3年	146	85	58.22	57	39.04	4	2.74	0	0.00	0	0.00
	4～10年	157	101	64.33	54	34.39	2	1.27	0	0.00	0	0.00
	11～20年	54	36	66.67	18	33.33	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	21年～	51	37	72.55	13	25.49	1	1.96	0	0.00	0	0.00
所属部	体育部	136	93	68.38	39	28.68	4	2.94	0	0.00	0	0.00
	体育部 以外	254	154	60.63	97	38.19	3	1.18	0	0.00	0	0.00

表III-6は、「指導方法について理解ができた」かどうかについての回答である。この設問についても、教職歴別に見ると、～10年までの教師は、「とても思う」が最も割合が高くなっていることがわかった(53.42%、56.05%、62.26%、60.78%)。

体育部に所属している教師は「とても思う」が61.48%、体育部以外の教師のそれが52.76%と、最も高い割合であることは教職歴の結果と同様であるが、体育部所属の教師の方がその理解度が高いと回答していたことも、特徴的な結果であったといえる。

これらのことから、研修を通して、指導方法の理解については、よく理解できたと感じた者が多く、特に体育部の教師ほど高い理解度を示していたことが確かめられた。

表 III-6 質問5 指導方法について理解ができた

			とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
			人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
教職歴	全体	407	230	56.51	169	41.52	8	1.97	0	0.00	0	0.00
	～3年	146	78	53.42	64	43.84	4	2.74	0	0.00	0	0.00
	4～10年	157	88	56.05	66	42.04	3	1.91	0	0.00	0	0.00
	11～20年	53	33	62.26	20	37.74	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	21年～	51	31	60.78	19	41.18	2	3.92	0	0.00	0	0.00
所属部	体育部	135	83	61.48	49	36.30	3	2.22	0	0.00	0	0.00
	体育部 以外	254	134	52.76	115	45.28	5	1.97	0	0.00	0	0.00

表III-7は、「単元計画づくりについて理解できた」かどうかについての回答である。教職歴別に見ると、～10年までの教師は、「少し思う」が最も割合が高く(49.32%、54.84%)、「とても思う」との差が大きかったが(30.04%、36.13%)、11～20年の教師ではその差が小さくなり(とても思う:45.28%、少し思う:44.40%)、21年以上では「とても思う」(54.90%)が「少し思う」(41.18%)を逆転していた。

部会の所属別にみると、体育部の教師もそうでない教師も、「少し思う」が最も高い割合となっていた(47.76%、50.59%)。

これらのことから、単元計画づくりについては、教職歴が長い教師ほど理解度が高いという事実をうかがうことができた。

表 III-7 質問 6 単元計画づくりについて理解できた

			とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
			人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
教職歴	全体	405	165	40.74	201	49.63	37	9.14	2	0.49	0	0.00
	～3年	146	57	30.04	72	49.32	16	10.96	1	0.68	0	0.00
	4～10年	155	56	36.13	85	54.84	13	8.39	1	0.65	0	0.00
	11～20年	53	24	45.28	23	43.40	6	11.32	0	0.00	0	0.00
	21年～	51	28	54.90	21	41.18	2	3.92	0	0.00	0	0.00
所属部	体育部	134	52	38.81	64	47.76	17	12.69	1	0.75	0	0.00
	体育部 以外	253	105	41.50	128	50.59	19	7.51	1	0.40	0	0.00

表III-8は、「動きのポイントについて理解できた」かどうかについての回答である。教職歴別に見ると、教職歴に関係なく、「少し思う」が最も高い割合となっていた(50.34%、55.19%、49.06%、46.00%)。

部会の所属別にみると、教職歴と同様に、体育部の教師もそうでない教師も、「少し思う」が最も高い割合となっていた(51.52%、51.19%)。

これらのことから、動きのポイントの理解について、多くの教師は、教職歴・所属部会に関わらず、その理解度に若干の課題を感じている様子がうかがえた。

表 III-8 質問 7 動きのポイントについて理解できた

			とても思う		少し思う		どちらでもない		あまり思わない		全く思わない	
			人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
教職歴	全体	402	130	32.34	207	51.49	56	13.93	9	2.24	0	0.00
	～3年	145	49	33.79	73	50.34	19	13.10	4	2.76	0	0.00
	4～10年	154	44	28.57	85	55.19	22	14.29	3	1.95	0	0.00
	11～20年	53	18	33.96	26	49.06	8	15.09	1	1.89	0	0.00
	21年～	50	19	38.00	23	46.00	7	14.00	1	2.00	0	0.00
所属部	体育部	132	44	33.33	68	51.52	19	14.39	1	0.76	0	0.00
	体育部 以外	252	81	32.14	129	51.19	34	13.49	8	3.17	0	0.00

3章 分析結果のまとめ

以上の分析から、次のことがらが確認された。

- ①学習指導要領の十分な理解については、教職歴が浅い教師、体育部以外の教師にとっては、今回の研修内容や時間のみでは課題が残ることが予想される。
- ②領域の考え方の理解については、教職歴が浅い教師、体育部以外の教師にとっては、今回の研修内容や時間のみでは課題が残ることが予想される。
- ③指導内容の理解については、今回対象とした研修のような内容を通して十分な理解を導くことができる。
- ④教材の理解については、今回対象とした研修のような内容を通して、十分な理解を導くことができる。
- ⑤指導方法の理解については、教職歴が長い教師、体育部の教師が対象の場合、高い理解度を導くことができる。
- ⑥単元計画づくりの理解については、教職歴が長い教師ほど高い理解度を導くことができる。
- ⑦動きのポイントの理解については、教職歴・所属部会に関わらず、その理解度に若干の課題が残ることが予想される。

研修に関するアンケート

A あなた自身について、当てはまる数字に○を付けてください。

1. 性別	① 男 ② 女
2. 教職歴	① ~3年 ② 4年~10年 ③ 11年~20年 ④ 21年~
3. 研究部(区市町村の教育研究会)の所属	① 国語 ② 算数 ③ 理科 ④ 社会 ⑤ 生活 ⑥ 音楽 ⑦ 図画工作 ⑧ 体育 ⑨ 家庭 ⑩ 道徳 ⑪ その他

B 本日の研修について回答してください。当てはまる数字に○を付けてください。

	とても 思う	少し思 う	どちら でもな い	あまり思 わない	全く思わ ない
1 学習指導要領について理解ができた	①	②	③	④	⑤
2 領域の考え方について理解ができた	①	②	③	④	⑤
3 指導内容(動きのポイントを含む)についての理解ができた	①	②	③	④	⑤
4 教材について理解ができた	①	②	③	④	⑤
5 指導方法について理解ができた	①	②	③	④	⑤
6 単元計画づくりについて理解ができた	①	②	③	④	⑤
7 評価の視点と方法について理解ができた	①	②	③	④	⑤

C 本日の研修について以下に記載してください。

1. 初めて知ったことや再確認できたことがあった方は、その内容を記載してください。

2. もっと知りたいと思うことがある方は、その内容を記載してください。

3. これから継続的に授業力向上の取り組みをしていくために、どのような情報やサポートがあればいいと思いますか。

ありがとうございました。

第Ⅳ部 教師の効力感に関する検討

1章 先行研究の検討

1節 自己効力感研究

自己効力感とは、社会的学習理論を体系化した Bandura が定義した概念である。社会的学習理論においては、人間の行動を決定する要因として「先行要因(生理・情動反応、学習の生得的機制、予期機能)」、「結果要因(外的強化、代理的強化、自己強化)」、「認知に基づく動機づけ、随伴性の認知的表象」があげられ、それらの要因が複雑に絡み合いながら人と行動と環境という三項間の相互作用の循環が形成されると述べられている。Bandura(1977)ⁱは、行動決定の先行要因としての予期は結果予期と効力予期の二つがあるとし、結果予期を「ある行動がどのような結果を生み出すかという予期」とし、効力予期を「その結果が生ずるのに必要な行動をうまく行うことができるかどうかという予期」と述べる。ここで重要なのは、環境の出来事についての結果予期よりも、自己がある結果を生み出すために必要な行動をどの程度実現可能であるのかと認識しているかという自己効力感である。

この自己効力感は、次の三つの次元に沿って変化するとされている。それは、「水準(自分にはどこまで解決可能かという予期のレベルの高さ)」、「強度(どのぐらい確実に実行できそうかという確信の程度)」、「一般性(どの程度まで、対象・状況・行動を超えて広がりを持つか)」である。このような次元から自己効力感を高めていくアプローチがとられることで、教師自身が体育授業をできそうだと感じ、日々の実践に取り組めるようになると考えられる。

2節 教師効力感研究

自己効力感研究の中でも、一般性セルフ・エフィカシー尺度の研究と特性的自己効力感尺度の研究が近年なされてきており(池辺・三國、2014)ⁱⁱ、後者は、行動遂行場面に限定した尺度化が検討されているところである。そのような自己効力感研究を背景にしながら、教師行動に限定した教師効力感研究がなされている。

教師教育の分野では、「教師効力感」として研究が進められつつあるが、まだまだ歴史も浅く研究途上である。教師効力感とは、一般的に「望ましい教育的結果を遂行できるという教師の信念」(淵上ら、2004ⁱⁱⁱ、p1)という概念であるところでは捉えておきたい。

教師の自己効力感に関する主な研究として、松田・鈴木(1997^{iv}、1999)の中堅教師を対象とした研究がある。これらの研究では、単に経験年数の増加が自己効力感の増加にはつながらず、教師を取り巻く人間関係のあり方が教師の自己効力感の形成要因として重要であると結論づけている。この結論は鈴木・松田・石田(2001)^vによって明らかにされた、教師の自己効力感のあり方を総合的学習の時間に対する態度との関連における研究の結論とも一致する。また近年、教師の多忙化やいじめ・学業不振・不登校などの様々な深刻な問題を抱える教育現場の現状から、教師のメンタルヘルスを保つために教師バーンアウトと教師効力感との関連を明らかにする研究も散見される。その中でも谷島(2013)^{vi}は、教師本来の職務である児童生徒に真剣に向きあうことでバーンアウトを予防することができ、その環境を多忙な教師に提供することが教師のメンタルヘルスを保つ上で重要であると指摘している。一方で、上述した松田・鈴木たちの研究の結論と同様な、教師を取り巻く環境の重要性を明らかにした研究に淵上・西村(2004)の研究がある。淵上らは教師効力感の低さがバーンアウトの高さと関連し、協働的効力感(「学校組織の改善に向けて、同僚と協力し合う協働を軸とした教師効力感」(淵上ら、2004、p1))の形成が職場の環境と密接に関連しているだけでなく、バーンアウトの軽減に欠かさない要素であると指摘する。また貝川・鈴木(2006)^{vii}の「協働性」や「職場満足」の2因子からなる学校組織特性と教師効力感、バーンアウトと

の関連を明らかにした研究も散見される。貝川・鈴木は学校組織特性が高いことは教師効力感を高め、バーンアウトの要因となる「達成感の後退」を軽減すること、また教師力量の限界を感じることでバーンアウトに陥りやすくなると結論づけている。加えて、教師の力量とバーンアウトとの関連についての研究には、伊藤(2000)^{viii}の研究がある。伊藤はバーンアウトの要因について、教師観のタイプで要因が異なることを明らかにし、教師の能力に対する自信のなさ、つまりは授業や学級経営などに対する苦手意識がバーンアウトに関連すると述べる。

2章 目的

以上、概観してきたように、教師効力感研究は、教師のやりがいやバーンアウトとどのように関連しているのかが検討されてきている。つまり、教師の置かれた学校という組織内において教師の効力感が検討されてきたということであろう。ところが、小学校教員に目を向けると、その仕事内容は多岐に渡り、その中でも得意な仕事とそうでない仕事があると思われる。さらにいえば、小学校教員の教育に関わる実践は、主に教科という形で枠組みが形成されており、得意教科不得意教科があることはこれまでも様々な研究において指摘されてきたところである。つまり、教科固有の学習内容と、白旗(2013)¹⁸が指摘するように教科固有の指導に関する知識がある以上、教科ごとの教師効力感研究をしていかなければ、現実的に活用できる尺度にはならないと考えられる。よって本研究では、教師効力感のなかでも学級経営等の内容を除外した、教科指導＝体育の授業に関わる内容の尺度を開発することを目的とする。

3章 研究方法

研究方法は、質問紙調査法を用い、学校単位の留め置き法を用いることとした。なお、今年度は教員の全体傾向をつかむ必要があったため、O 県 K 市の教員に対して悉皆調査を行うこととした。

4章 尺度の作成

1節 体育授業版教師効力感尺度の検討

教師効力感研究では、学級経営に関する内容と教科指導に関する内容に分けられて検討されてきている。本調査では、淵上ら(2004)*の研究をもとに学級経営の内容を除外した教科固有の内容を抽出し、5名の研究者とともに体育固有の内容などを検討し調査項目を決定した。その結果、以下の19目を設定することとなった。

- ・児童の実態に応じた道具を工夫することができる
- ・もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる
- ・児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる
- ・実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる
- ・休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる
- ・もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる
- ・児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える
- ・授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている
- ・必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる
- ・ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる
- ・身体感覚イメージを子どもに伝えることができる
- ・子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる
- ・状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる
- ・特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる
- ・体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる
- ・子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる
- ・単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる
- ・グループ学習をうまくコーディネートすることができる
- ・自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

2節 教師効力感に影響を及ぼす要因

体育授業版教師効力感尺度を検討する上で、影響を及ぼすと思われる要因を以下のように設定し、検討することとした。

- ①性別
- ②体育授業の得意不得意意識
- ③現在のスポーツ実施
- ④過去の体育授業に対するイメージ
- ⑤過去の運動・スポーツ好感度

5章 教師の効力感調査の結果

1節 調査対象者及び調査時期・調査方法

質問紙調査法を用い、O 県 K 市立全校の小学校教員 1654 名を対象とした。調査時期は 2016 年 11 月の 1 ヶ月間である。K 市の小学校教員に対して悉皆調査を行うため、K 市の体育部会会長から調査実施の許可を得た後、同時期に行われた K 市の体育授業研究会に参加していた K 市の各学校の教員に、その場で研究の趣旨を説明し、同意を得て調査用紙と返送用封筒を配布した。また、研究会に参加していなかった小学校に対しては、研究者と同研究室の研究者 2 名が直接各学校に訪問し、研究の趣旨を説明した上で、同意を得て調査用紙と返送用封筒を配布した。各学校アンケート実施後は研究者の元へ返送用封筒を用いて返送するようお願いをし、郵送にて 986 名から回収を行った(回収率 59.6%)。それらの中から有効回答された 859 名(男性 331 名(38.5%)、女性 527 名(61.5%))を分析対象とした。

分析対象者の属性は次の通りである。

- 1)年代は 20 代が 256 名(29.8%)、30 代が 181 名(21.1%)、40 代が 184 名(21.4%)、50 代が 238 名(22.7%)であった。
- 2)現在スポーツを行っている教員は 370 名(43.1%)、行っていない教員は 486 名(56.6%)であった。
- 3)体育授業の指導が得意かどうかについての質問に対して、とても得意であると回答したのは 8 人(0.9%)、わりと得意であると回答したのは 311 名(36.2%)、あまり得意でないと回答したのは 493 名(57.4%)、全く得意ではないと回答したのは 47 名(5.5%)であった。
- 4)過去の体育授業に対する好感度については、とても好きだったと回答したのは 428 名(49.8%)、少し好きだったと回答したのは 238 名(27.7%)、あまり好きではなかったと回答したのは 154 名(17.9%)、全く好きではなかったと回答したのは 35 名(4.1%)であった。
- 5)過去の運動・スポーツに対する好感度については、とても好きだったと回答したのは 509 名(59.3%)、少し好きだったと回答したのは 223 名(26.0%)、あまり好きではなかったと回答したのは 102 名(11.9%)、全く好きではなかったと回答したのは 23 名(2.7%)であった。

2節 各項目の平均値と標準偏差

体育授業版教師効力感の測定項目の平均値と標準偏差は下記の表IV-1 に示す通りとなった。

表 IV-1 体育授業版教師効力感測定項目の平均値と標準偏差

体育授業版教師効力感		最小値	最大値	平均値	標準偏差
1	児童の実態に応じた道具を工夫することができる	1	7	4.46	1.028
2	もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる	1	7	4.56	.963
3	児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる	1	7	4.62	.953
4	実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる	1	7	4.51	1.059
5	休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる	1	7	4.55	1.321
6	もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる	1	7	4.17	1.072
7	児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える	1	7	4.13	1.062
8	授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている	1	7	3.81	1.104
9	必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる	1	7	3.80	1.304
10	ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる	1	7	3.52	1.287
11	身体感覚イメージを子どもに伝えることができる	1	7	4.00	1.131
12	子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる	1	7	4.02	1.020
13	状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる	1	7	5.07	.912
14	特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる	1	7	4.31	.970
15	体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる	1	7	3.90	1.088
16	子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる	1	7	4.33	1.008
17	単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる	1	7	4.42	1.046
18	グループ学習をうまくコーディネートすることができる	1	7	4.25	1.067
19	自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる	1	7	4.26	1.114

3節 各要因と各項目のクロス集計

1項 性別と各項目のクロス集計

性別と各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-2～表IV-20 のようになった。いずれもカイ二乗検定の結果 1%水準で有意な値を示した。

表 IV-2 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

			IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
性別	女性	度数	2	18	119	145	220	23	0	527
		性別の%	.4%	3.4%	22.6%	27.5%	41.7%	4.4%	0.0%	100.0%
性別	男性	度数	1	3	29	55	162	74	7	331
		性別の%	.3%	.9%	8.8%	16.6%	48.9%	22.4%	2.1%	100.0%
合計		度数	3	21	148	200	382	97	7	858
		性別の%	.3%	2.4%	17.2%	23.3%	44.5%	11.3%	.8%	100.0%

表 IV-3 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

			IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
性別	女性	度数	2	15	89	129	262	29	1	527
		性別の%	.4%	2.8%	16.9%	24.5%	49.7%	5.5%	.2%	100.0%
性別	男性	度数	0	3	27	62	167	69	3	331
		性別の%	0.0%	.9%	8.2%	18.7%	50.5%	20.8%	.9%	100.0%
合計		度数	2	18	116	191	429	98	4	858
		性別の%	.2%	2.1%	13.5%	22.3%	50.0%	11.4%	.5%	100.0%

表 IV-4 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

			IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
性別	女性	度数	2	8	82	119	275	40	1	527
		性別の%	.4%	1.5%	15.6%	22.6%	52.2%	7.6%	.2%	100.0%
性別	男性	度数	0	7	26	58	170	65	5	331
		性別の%	0.0%	2.1%	7.9%	17.5%	51.4%	19.6%	1.5%	100.0%
合計		度数	2	15	108	177	445	105	6	858
		性別の%	.2%	1.7%	12.6%	20.6%	51.9%	12.2%	.7%	100.0%

表 IV-5 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

			IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
性別	女性	度数	2	18	101	134	230	41	1	527
		性別の%	.4%	3.4%	19.2%	25.4%	43.6%	7.8%	.2%	100.0%
性別	男性	度数	1	9	34	62	139	81	5	331
		性別の%	.3%	2.7%	10.3%	18.7%	42.0%	24.5%	1.5%	100.0%
合計		度数	3	27	135	196	369	122	6	858
		性別の%	.3%	3.1%	15.7%	22.8%	43.0%	14.2%	.7%	100.0%

表 IV-6 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

			IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	16	30	116	115	166	75	9	527
		性別の%	3.0%	5.7%	22.0%	21.8%	31.5%	14.2%	1.7%	100.0%
	男性	度数	2	7	28	45	120	105	24	331
		性別の%	.6%	2.1%	8.5%	13.6%	36.3%	31.7%	7.3%	100.0%
合計	度数	18	37	144	160	286	180	33	858	
	性別の%	2.1%	4.3%	16.8%	18.6%	33.3%	21.0%	3.8%	100.0%	

表 IV-7 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

			IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	7	30	161	158	153	17	1	527
		性別の%	1.3%	5.7%	30.6%	30.0%	29.0%	3.2%	.2%	100.0%
	男性	度数	2	3	42	88	152	37	7	331
		性別の%	.6%	.9%	12.7%	26.6%	45.9%	11.2%	2.1%	100.0%
合計	度数	9	33	203	246	305	54	8	858	
	性別の%	1.0%	3.8%	23.7%	28.7%	35.5%	6.3%	.9%	100.0%	

表 IV-8 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

			IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	9	29	147	196	127	19	0	527
		性別の%	1.7%	5.5%	27.9%	37.2%	24.1%	3.6%	0.0%	100.0%
	男性	度数	1	3	53	91	127	54	2	331
		性別の%	.3%	.9%	16.0%	27.5%	38.4%	16.3%	.6%	100.0%
合計	度数	10	32	200	287	254	73	2	858	
	性別の%	1.2%	3.7%	23.3%	33.4%	29.6%	8.5%	.2%	100.0%	

表 IV-9 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

			IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	14	59	204	164	79	7	0	527
		性別の%	2.7%	11.2%	38.7%	31.1%	15.0%	1.3%	0.0%	100.0%
	男性	度数	2	10	66	94	122	35	2	331
		性別の%	.6%	3.0%	19.9%	28.4%	36.9%	10.6%	.6%	100.0%
合計	度数	16	69	270	258	201	42	2	858	
	性別の%	1.9%	8.0%	31.5%	30.1%	23.4%	4.9%	.2%	100.0%	

表 IV-10 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

			IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	31	82	174	138	94	7	1	527
		性別の%	5.9%	15.6%	33.0%	26.2%	17.8%	1.3%	.2%	100.0%
	男性	度数	6	16	56	66	124	57	6	331
		性別の%	1.8%	4.8%	16.9%	19.9%	37.5%	17.2%	1.8%	100.0%
合計	度数	37	98	230	204	218	64	7	858	
	性別の%	4.3%	11.4%	26.8%	23.8%	25.4%	7.5%	.8%	100.0%	

表 IV-11 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

			IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	43	108	178	116	78	4	0	527
		性別の%	8.2%	20.5%	33.8%	22.0%	14.8%	.8%	0.0%	100.0%
性別	男性	度数	11	21	80	81	101	34	3	331
		性別の%	3.3%	6.3%	24.2%	24.5%	30.5%	10.3%	.9%	100.0%
合計		度数	54	129	258	197	179	38	3	858
		性別の%	6.3%	15.0%	30.1%	23.0%	20.9%	4.4%	.3%	100.0%

表 IV-12 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

			IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	14	47	159	155	144	8	0	527
		性別の%	2.7%	8.9%	30.2%	29.4%	27.3%	1.5%	0.0%	100.0%
性別	男性	度数	2	10	58	90	134	27	10	331
		性別の%	.6%	3.0%	17.5%	27.2%	40.5%	8.2%	3.0%	100.0%
合計		度数	16	57	217	245	278	35	10	858
		性別の%	1.9%	6.6%	25.3%	28.6%	32.4%	4.1%	1.2%	100.0%

表 IV-13 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	8	37	159	197	113	13	0	527
		性別の%	1.5%	7.0%	30.2%	37.4%	21.4%	2.5%	0.0%	100.0%
性別	男性	度数	2	5	52	96	150	25	1	331
		性別の%	.6%	1.5%	15.7%	29.0%	45.3%	7.6%	.3%	100.0%
合計		度数	10	42	211	293	263	38	1	858
		性別の%	1.2%	4.9%	24.6%	34.1%	30.7%	4.4%	.1%	100.0%

表 IV-14 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	1	12	23	69	295	112	15	527
		性別の%	.2%	2.3%	4.4%	13.1%	56.0%	21.3%	2.8%	100.0%
性別	男性	度数	1	2	9	33	165	109	12	331
		性別の%	.3%	.6%	2.7%	10.0%	49.8%	32.9%	3.6%	100.0%
合計		度数	2	14	32	102	460	221	27	858
		性別の%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.6%	25.8%	3.1%	100.0%

表 IV-15 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	5	16	114	199	171	22	0	527
		性別の%	.9%	3.0%	21.6%	37.8%	32.4%	4.2%	0.0%	100.0%
性別	男性	度数	1	6	26	94	160	42	2	331
		性別の%	.3%	1.8%	7.9%	28.4%	48.3%	12.7%	.6%	100.0%
合計		度数	6	22	140	293	331	64	2	858
		性別の%	.7%	2.6%	16.3%	34.1%	38.6%	7.5%	.2%	100.0%

表 IV-16 15)体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	14	52	159	192	98	11	1	527
		性別の%	2.7%	9.9%	30.2%	36.4%	18.6%	2.1%	.2%	100.0%
性別	男性	度数	2	11	63	100	125	28	2	331
		性別の%	.6%	3.3%	19.0%	30.2%	37.8%	8.5%	.6%	100.0%
合計		度数	16	63	222	292	223	39	3	858
		性別の%	1.9%	7.3%	25.9%	34.0%	26.0%	4.5%	.3%	100.0%

表 IV-17 16)子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	6	21	114	143	223	19	1	527
		性別の%	1.1%	4.0%	21.6%	27.1%	42.3%	3.6%	.2%	100.0%
性別	男性	度数	0	8	40	71	173	38	1	331
		性別の%	0.0%	2.4%	12.1%	21.5%	52.3%	11.5%	.3%	100.0%
合計		度数	6	29	154	214	396	57	2	858
		性別の%	.7%	3.4%	17.9%	24.9%	46.2%	6.6%	.2%	100.0%

表 IV-18 17)単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

			IV17単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	4	23	96	135	241	27	1	527
		性別の%	.8%	4.4%	18.2%	25.6%	45.7%	5.1%	.2%	100.0%
性別	男性	度数	1	8	38	77	144	56	7	331
		性別の%	.3%	2.4%	11.5%	23.3%	43.5%	16.9%	2.1%	100.0%
合計		度数	5	31	134	212	385	83	8	858
		性別の%	.6%	3.6%	15.6%	24.7%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%

表 IV-19 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

			IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	7	27	125	155	192	21	0	527
		性別の%	1.3%	5.1%	23.7%	29.4%	36.4%	4.0%	0.0%	100.0%
性別	男性	度数	2	5	49	86	135	50	4	331
		性別の%	.6%	1.5%	14.8%	26.0%	40.8%	15.1%	1.2%	100.0%
合計		度数	9	32	174	241	327	71	4	858
		性別の%	1.0%	3.7%	20.3%	28.1%	38.1%	8.3%	.5%	100.0%

表 IV-20 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

			IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
性別	女性	度数	7	36	118	148	190	27	1	527
		性別の%	1.3%	6.8%	22.4%	28.1%	36.1%	5.1%	.2%	100.0%
性別	男性	度数	2	7	49	76	142	48	7	331
		性別の%	.6%	2.1%	14.8%	23.0%	42.9%	14.5%	2.1%	100.0%
合計		度数	9	43	167	224	332	75	8	858
		性別の%	1.0%	5.0%	19.5%	26.1%	38.7%	8.7%	.9%	100.0%

全体的に、女性よりも男性の方が体育授業に関する教師効力感を高く認知している傾向にあった。

2項 得意不得意と各項目のクロス集計

体育授業が得意か不得意かによって各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-21～表IV-39のようになった。いずれもカイ二乗検定の結果1%水準で有意な値を示した。

表 IV-21 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

			IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	1	0	4	3	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	50.0%	37.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	1	11	39	176	80	4	311
		苦手意識の%	0.0%	.3%	3.5%	12.5%	56.6%	25.7%	1.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	1	10	121	149	200	12	0	493
		苦手意識の%	.2%	2.0%	24.5%	30.2%	40.6%	2.4%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	2	10	16	12	6	1	0	47
		苦手意識の%	4.3%	21.3%	34.0%	25.5%	12.8%	2.1%	0.0%	100.0%
合計	度数	3	21	148	201	382	97	7	859	
	苦手意識の%	.3%	2.4%	17.2%	23.4%	44.5%	11.3%	.8%	100.0%	

表 IV-22 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

			IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	1	4	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	50.0%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	1	9	38	195	67	1	311
		苦手意識の%	0.0%	.3%	2.9%	12.2%	62.7%	21.5%	.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	1	10	90	138	226	26	2	493
		苦手意識の%	.2%	2.0%	18.3%	28.0%	45.8%	5.3%	.4%	100.0%
	全く得意ではない	度数	1	7	17	13	8	1	0	47
		苦手意識の%	2.1%	14.9%	36.2%	27.7%	17.0%	2.1%	0.0%	100.0%
合計	度数	2	18	116	191	430	98	4	859	
	苦手意識の%	.2%	2.1%	13.5%	22.2%	50.1%	11.4%	.5%	100.0%	

表 IV-23 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

			IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	2	3	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	37.5%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	1	6	38	198	65	3	311
		苦手意識の%	0.0%	.3%	1.9%	12.2%	63.7%	20.9%	1.0%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	1	7	88	125	234	36	2	493
		苦手意識の%	.2%	1.4%	17.8%	25.4%	47.5%	7.3%	.4%	100.0%
	全く得意ではない	度数	1	7	14	13	11	1	0	47
		苦手意識の%	2.1%	14.9%	29.8%	27.7%	23.4%	2.1%	0.0%	100.0%
合計	度数	2	15	108	178	445	105	6	859	
	苦手意識の%	.2%	1.7%	12.6%	20.7%	51.8%	12.2%	.7%	100.0%	

表 IV-24 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

		IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	1	0	5	2	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	62.5%	25.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	0	8	53	163	83	4	311
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	2.6%	17.0%	52.4%	26.7%	1.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	0	18	112	128	201	34	0	493
		苦手意識の%	0.0%	3.7%	22.7%	26.0%	40.8%	6.9%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	3	9	15	14	6	0	0	47
		苦手意識の%	6.4%	19.1%	31.9%	29.8%	12.8%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	3	27	135	196	370	122	6	859	
	苦手意識の%	.3%	3.1%	15.7%	22.8%	43.1%	14.2%	.7%	100.0%	

表 IV-25 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

		IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	1	2	0	3	2	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%	37.5%	25.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	3	4	27	50	106	99	22	311
		苦手意識の%	1.0%	1.3%	8.7%	16.1%	34.1%	31.8%	7.1%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	11	23	107	98	171	74	9	493
		苦手意識の%	2.2%	4.7%	21.7%	19.9%	34.7%	15.0%	1.8%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	10	9	10	9	5	0	47
		苦手意識の%	8.5%	21.3%	19.1%	21.3%	19.1%	10.6%	0.0%	100.0%
合計	度数	18	37	144	160	286	181	33	859	
	苦手意識の%	2.1%	4.3%	16.8%	18.6%	33.3%	21.1%	3.8%	100.0%	

表 IV-26 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

		IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	1	4	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	50.0%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	1	2	20	71	174	38	5	311
		苦手意識の%	.3%	.6%	6.4%	22.8%	55.9%	12.2%	1.6%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	4	21	163	164	127	12	2	493
		苦手意識の%	.8%	4.3%	33.1%	33.3%	25.8%	2.4%	.4%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	10	20	9	4	0	0	47
		苦手意識の%	8.5%	21.3%	42.6%	19.1%	8.5%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	9	33	203	246	306	54	8	859	
	苦手意識の%	1.0%	3.8%	23.6%	28.6%	35.6%	6.3%	.9%	100.0%	

表 IV-27 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

		IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	2	4	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	1	1	15	74	163	55	2	311
		苦手意識の%	.3%	.3%	4.8%	23.8%	52.4%	17.7%	.6%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	2	20	171	197	89	14	0	493
		苦手意識の%	.4%	4.1%	34.7%	40.0%	18.1%	2.8%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	7	11	14	15	0	0	0	47
		苦手意識の%	14.9%	23.4%	29.8%	31.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	10	32	200	288	254	73	2	859	
	苦手意識の%	1.2%	3.7%	23.3%	33.5%	29.6%	8.5%	.2%	100.0%	

表 IV-28 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

		IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	3	3	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	5	33	95	141	35	2	311
		苦手意識の%	0.0%	1.6%	10.6%	30.5%	45.3%	11.3%	.6%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	5	51	222	154	57	4	0	493
		苦手意識の%	1.0%	10.3%	45.0%	31.2%	11.6%	.8%	0.0%	100.0%
全く得意ではない	度数	11	13	15	8	0	0	0	47	
	苦手意識の%	23.4%	27.7%	31.9%	17.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	度数	16	69	270	259	201	42	2	859	
	苦手意識の%	1.9%	8.0%	31.4%	30.2%	23.4%	4.9%	.2%	100.0%	

表 IV-29 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

		IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	1	5	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	62.5%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	2	8	26	75	142	52	6	311
		苦手意識の%	.6%	2.6%	8.4%	24.1%	45.7%	16.7%	1.9%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	22	76	190	125	73	7	0	493
		苦手意識の%	4.5%	15.4%	38.5%	25.4%	14.8%	1.4%	0.0%	100.0%
全く得意ではない	度数	13	14	14	3	2	0	1	47	
	苦手意識の%	27.7%	29.8%	29.8%	6.4%	4.3%	0.0%	2.1%	100.0%	
合計	度数	37	98	230	205	218	64	7	859	
	苦手意識の%	4.3%	11.4%	26.8%	23.9%	25.4%	7.5%	.8%	100.0%	

表 IV-30 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

		IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	1	1	3	3	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	37.5%	37.5%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	5	18	72	91	94	29	2	311
		苦手意識の%	1.6%	5.8%	23.2%	29.3%	30.2%	9.3%	.6%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	38	98	174	99	77	6	1	493
		苦手意識の%	7.7%	19.9%	35.3%	20.1%	15.6%	1.2%	.2%	100.0%
全く得意ではない	度数	11	14	11	6	5	0	0	47	
	苦手意識の%	23.4%	29.8%	23.4%	12.8%	10.6%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	度数	54	130	258	197	179	38	3	859	
	苦手意識の%	6.3%	15.1%	30.0%	22.9%	20.8%	4.4%	.3%	100.0%	

表 IV-31 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

		IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	3	2	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%	25.0%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	1	7	32	82	155	25	9	311
		苦手意識の%	.3%	2.3%	10.3%	26.4%	49.8%	8.0%	2.9%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	7	36	173	152	117	8	0	493
		苦手意識の%	1.4%	7.3%	35.1%	30.8%	23.7%	1.6%	0.0%	100.0%
全く得意ではない	度数	8	14	12	10	3	0	0	47	
	苦手意識の%	17.0%	29.8%	25.5%	21.3%	6.4%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	度数	16	57	217	246	278	35	10	859	
	苦手意識の%	1.9%	6.6%	25.3%	28.6%	32.4%	4.1%	1.2%	100.0%	

表 IV-32 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	2	4	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	1	1	31	87	164	26	1	311
		苦手意識の%	.3%	.3%	10.0%	28.0%	52.7%	8.4%	.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	5	23	167	195	95	8	0	493
		苦手意識の%	1.0%	4.7%	33.9%	39.6%	19.3%	1.6%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	18	13	10	2	0	0	47
		苦手意識の%	8.5%	38.3%	27.7%	21.3%	4.3%	0.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	10	42	211	294	263	38	1	859
		苦手意識の%	1.2%	4.9%	24.6%	34.2%	30.6%	4.4%	.1%	100.0%

表 IV-33 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	1	2	5	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	62.5%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	2	5	13	163	112	16	311
		苦手意識の%	0.0%	.6%	1.6%	4.2%	52.4%	36.0%	5.1%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	0	5	25	77	276	99	11	493
		苦手意識の%	0.0%	1.0%	5.1%	15.6%	56.0%	20.1%	2.2%	100.0%
	全く得意ではない	度数	2	7	2	11	20	5	0	47
		苦手意識の%	4.3%	14.9%	4.3%	23.4%	42.6%	10.6%	0.0%	100.0%
合計		度数	2	14	32	102	461	221	27	859
		苦手意識の%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.7%	25.7%	3.1%	100.0%

表 IV-34 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	2	2	2	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	1	3	14	55	192	46	0	311
		苦手意識の%	.3%	1.0%	4.5%	17.7%	61.7%	14.8%	0.0%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	1	11	109	224	132	16	0	493
		苦手意識の%	.2%	2.2%	22.1%	45.4%	26.8%	3.2%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	8	17	13	5	0	0	47
		苦手意識の%	8.5%	17.0%	36.2%	27.7%	10.6%	0.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	6	22	140	294	331	64	2	859
		苦手意識の%	.7%	2.6%	16.3%	34.2%	38.5%	7.5%	.2%	100.0%

表 IV-35 15)体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	3	5	0	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	2	10	35	106	123	32	3	311
		苦手意識の%	.6%	3.2%	11.3%	34.1%	39.5%	10.3%	1.0%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	7	39	174	174	92	7	0	493
		苦手意識の%	1.4%	7.9%	35.3%	35.3%	18.7%	1.4%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	7	14	13	10	3	0	0	47
		苦手意識の%	14.9%	29.8%	27.7%	21.3%	6.4%	0.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	16	63	222	293	223	39	3	859
		苦手意識の%	1.9%	7.3%	25.8%	34.1%	26.0%	4.5%	.3%	100.0%

表 IV-36 16)子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	2	4	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	4	15	55	194	42	1	311
		苦手意識の%	0.0%	1.3%	4.8%	17.7%	62.4%	13.5%	.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	2	16	124	146	193	11	1	493
		苦手意識の%	.4%	3.2%	25.2%	29.6%	39.1%	2.2%	.2%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	9	15	11	8	0	0	47
		苦手意識の%	8.5%	19.1%	31.9%	23.4%	17.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	6	29	154	214	397	57	2	859	
	苦手意識の%	.7%	3.4%	17.9%	24.9%	46.2%	6.6%	.2%	100.0%	

表 IV-37 17)単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

			IV17単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	1	1	5	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	62.5%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	1	12	54	174	63	7	311
		苦手意識の%	0.0%	.3%	3.9%	17.4%	55.9%	20.3%	2.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	1	21	106	147	203	15	0	493
		苦手意識の%	.2%	4.3%	21.5%	29.8%	41.2%	3.0%	0.0%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	9	16	10	8	0	0	47
		苦手意識の%	8.5%	19.1%	34.0%	21.3%	17.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	5	31	134	212	386	83	8	859	
	苦手意識の%	.6%	3.6%	15.6%	24.7%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%	

表 IV-38 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

			IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	1	5	0	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	62.5%	0.0%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	2	29	57	170	50	3	311
		苦手意識の%	0.0%	.6%	9.3%	18.3%	54.7%	16.1%	1.0%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	3	21	129	172	151	16	1	493
		苦手意識の%	.6%	4.3%	26.2%	34.9%	30.6%	3.2%	.2%	100.0%
	全く得意ではない	度数	6	9	16	10	6	0	0	47
		苦手意識の%	12.8%	19.1%	34.0%	21.3%	12.8%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	9	32	174	241	328	71	4	859	
	苦手意識の%	1.0%	3.7%	20.3%	28.1%	38.2%	8.3%	.5%	100.0%	

表 IV-39 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

			IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
苦手意識	とても得意である	度数	0	0	0	2	1	4	1	8
		苦手意識の%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	50.0%	12.5%	100.0%
	わりと得意である	度数	0	4	29	58	166	50	4	311
		苦手意識の%	0.0%	1.3%	9.3%	18.6%	53.4%	16.1%	1.3%	100.0%
	あまり得意ではない	度数	5	22	128	153	161	21	3	493
		苦手意識の%	1.0%	4.5%	26.0%	31.0%	32.7%	4.3%	.6%	100.0%
	全く得意ではない	度数	4	17	10	11	5	0	0	47
		苦手意識の%	8.5%	36.2%	21.3%	23.4%	10.6%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	9	43	167	224	333	75	8	859	
	苦手意識の%	1.0%	5.0%	19.4%	26.1%	38.8%	8.7%	.9%	100.0%	

全体的に、体育授業に対して指導が得意であると回答した教師の方が教師効力感を高く認知している傾向にあった。

3項 現在のスポーツ実施と各項目のクロス集計

現在スポーツを行っているか否かによって各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-40～表IV-58 のようになった。いずれもカイ二乗検定の結果 5%水準で有意な値を示した。

表 IV-40 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

			IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	1	4	61	71	166	61	6	370
		現在のスポーツ実践の%	.3%	1.1%	16.5%	19.2%	44.9%	16.5%	1.6%	100.0%
	未実施	度数	2	17	87	130	215	34	1	486
		現在のスポーツ実践の%	.4%	3.5%	17.9%	26.7%	44.2%	7.0%	.2%	100.0%
合計		度数	3	21	148	201	381	95	7	856
		現在のスポーツ実践の%	.4%	2.5%	17.3%	23.5%	44.5%	11.1%	.8%	100.0%

表 IV-41 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

			IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	1	5	41	78	190	52	3	370
		現在のスポーツ実践の%	.3%	1.4%	11.1%	21.1%	51.4%	14.1%	.8%	100.0%
	未実施	度数	1	13	75	113	237	46	1	486
		現在のスポーツ実践の%	.2%	2.7%	15.4%	23.3%	48.8%	9.5%	.2%	100.0%
合計		度数	2	18	116	191	427	98	4	856
		現在のスポーツ実践の%	.2%	2.1%	13.6%	22.3%	49.9%	11.4%	.5%	100.0%

表 IV-42 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

			IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	0	4	46	68	188	58	6	370
		現在のスポーツ実践の%	0.0%	1.1%	12.4%	18.4%	50.8%	15.7%	1.6%	100.0%
	未実施	度数	2	11	62	110	255	46	0	486
		現在のスポーツ実践の%	.4%	2.3%	12.8%	22.6%	52.5%	9.5%	0.0%	100.0%
合計		度数	2	15	108	178	443	104	6	856
		現在のスポーツ実践の%	.2%	1.8%	12.6%	20.8%	51.8%	12.1%	.7%	100.0%

表 IV-43 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

			IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	0	8	55	73	165	65	4	370
		現在のスポーツ実践の%	0.0%	2.2%	14.9%	19.7%	44.6%	17.6%	1.1%	100.0%
	未実施	度数	3	19	80	123	203	56	2	486
		現在のスポーツ実践の%	.6%	3.9%	16.5%	25.3%	41.8%	11.5%	.4%	100.0%
合計		度数	3	27	135	196	368	121	6	856
		現在のスポーツ実践の%	.4%	3.2%	15.8%	22.9%	43.0%	14.1%	.7%	100.0%

表 IV-44 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

			IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	4	14	53	58	133	87	21	370
		現在のスポーツ実践の%	1.1%	3.8%	14.3%	15.7%	35.9%	23.5%	5.7%	100.0%
	未実施	度数	14	23	91	102	152	92	12	486
		現在のスポーツ実践の%	2.9%	4.7%	18.7%	21.0%	31.3%	18.9%	2.5%	100.0%
合計		度数	18	37	144	160	285	179	33	856
		現在のスポーツ実践の%	2.1%	4.3%	16.8%	18.7%	33.3%	20.9%	3.9%	100.0%

表 IV-45 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

			IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	2	7	86	92	147	29	7	370
		現在のスポーツ実践の%	.5%	1.9%	23.2%	24.9%	39.7%	7.8%	1.9%	100.0%
	未実施	度数	7	25	116	154	159	24	1	486
		現在のスポーツ実践の%	1.4%	5.1%	23.9%	31.7%	32.7%	4.9%	.2%	100.0%
合計		度数	9	32	202	246	306	53	8	856
		現在のスポーツ実践の%	1.1%	3.7%	23.6%	28.7%	35.7%	6.2%	.9%	100.0%

表 IV-46 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

			IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	2	11	76	109	130	40	2	370
		現在のスポーツ実践の%	.5%	3.0%	20.5%	29.5%	35.1%	10.8%	.5%	100.0%
	未実施	度数	8	21	123	178	123	33	0	486
		現在のスポーツ実践の%	1.6%	4.3%	25.3%	36.6%	25.3%	6.8%	0.0%	100.0%
合計		度数	10	32	199	287	253	73	2	856
		現在のスポーツ実践の%	1.2%	3.7%	23.2%	33.5%	29.6%	8.5%	.2%	100.0%

表 IV-47 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

			IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	2	31	101	111	103	20	2	370
		現在のスポーツ実践の%	.5%	8.4%	27.3%	30.0%	27.8%	5.4%	.5%	100.0%
	未実施	度数	14	38	168	147	98	21	0	486
		現在のスポーツ実践の%	2.9%	7.8%	34.6%	30.2%	20.2%	4.3%	0.0%	100.0%
合計		度数	16	69	269	258	201	41	2	856
		現在のスポーツ実践の%	1.9%	8.1%	31.4%	30.1%	23.5%	4.8%	.2%	100.0%

表 IV-48 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

			IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	14	32	82	86	118	33	5	370
		現在のスポーツ実践の%	3.8%	8.6%	22.2%	23.2%	31.9%	8.9%	1.4%	100.0%
	未実施	度数	23	66	148	117	99	31	2	486
		現在のスポーツ実践の%	4.7%	13.6%	30.5%	24.1%	20.4%	6.4%	.4%	100.0%
合計		度数	37	98	230	203	217	64	7	856
		現在のスポーツ実践の%	4.3%	11.4%	26.9%	23.7%	25.4%	7.5%	.8%	100.0%

表 IV-49 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

			IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
現在のスポーツ実践	実施	度数	15	47	105	86	93	24	0	370
		現在のスポーツ実践の%	4.1%	12.7%	28.4%	23.2%	25.1%	6.5%	0.0%	100.0%
	未実施	度数	39	83	152	111	84	14	3	486
		現在のスポーツ実践の%	8.0%	17.1%	31.3%	22.8%	17.3%	2.9%	.6%	100.0%
合計		度数	54	130	257	197	177	38	3	856
		現在のスポーツ実践の%	6.3%	15.2%	30.0%	23.0%	20.7%	4.4%	.4%	100.0%

表 IV-50 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

			IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	3	22	74	104	136	25	6	370
		現在のスポーツ実践の%	.8%	5.9%	20.0%	28.1%	36.8%	6.8%	1.6%	100.0%
	未実施	度数	13	35	142	141	141	10	4	486
		現在のスポーツ実践の%	2.7%	7.2%	29.2%	29.0%	29.0%	2.1%	.8%	100.0%
合計		度数	16	57	216	245	277	35	10	856
		現在のスポーツ実践の%	1.9%	6.7%	25.2%	28.6%	32.4%	4.1%	1.2%	100.0%

表 IV-51 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	2	11	81	108	140	27	1	370
		現在のスポーツ実践の%	.5%	3.0%	21.9%	29.2%	37.8%	7.3%	.3%	100.0%
	未実施	度数	8	31	129	186	121	11	0	486
		現在のスポーツ実践の%	1.6%	6.4%	26.5%	38.3%	24.9%	2.3%	0.0%	100.0%
合計		度数	10	42	210	294	261	38	1	856
		現在のスポーツ実践の%	1.2%	4.9%	24.5%	34.3%	30.5%	4.4%	.1%	100.0%

表 IV-52 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	0	2	8	46	198	100	16	370
		現在のスポーツ実践の%	0.0%	.5%	2.2%	12.4%	53.5%	27.0%	4.3%	100.0%
	未実施	度数	2	12	24	56	262	119	11	486
		現在のスポーツ実践の%	.4%	2.5%	4.9%	11.5%	53.9%	24.5%	2.3%	100.0%
合計		度数	2	14	32	102	460	219	27	856
		現在のスポーツ実践の%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.7%	25.6%	3.2%	100.0%

表 IV-53 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	1	8	56	113	155	35	2	370
		現在のスポーツ実践の%	.3%	2.2%	15.1%	30.5%	41.9%	9.5%	.5%	100.0%
	未実施	度数	5	14	84	179	175	29	0	486
		現在のスポーツ実践の%	1.0%	2.9%	17.3%	36.8%	36.0%	6.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	6	22	140	292	330	64	2	856
		現在のスポーツ実践の%	.7%	2.6%	16.4%	34.1%	38.6%	7.5%	.2%	100.0%

表 IV-54 15)体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	5	26	95	104	114	23	3	370
		現在のスポーツ実践の%	1.4%	7.0%	25.7%	28.1%	30.8%	6.2%	.8%	100.0%
	未実施	度数	11	37	126	187	109	16	0	486
		現在のスポーツ実践の%	2.3%	7.6%	25.9%	38.5%	22.4%	3.3%	0.0%	100.0%
合計		度数	16	63	221	291	223	39	3	856
		現在のスポーツ実践の%	1.9%	7.4%	25.8%	34.0%	26.1%	4.6%	.4%	100.0%

表 IV-55 16)子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	0	7	59	92	181	29	2	370
		現在のスポーツ実践の%	0.0%	1.9%	15.9%	24.9%	48.9%	7.8%	.5%	100.0%
	未実施	度数	6	22	94	122	214	28	0	486
		現在のスポーツ実践の%	1.2%	4.5%	19.3%	25.1%	44.0%	5.8%	0.0%	100.0%
合計		度数	6	29	153	214	395	57	2	856
		現在のスポーツ実践の%	.7%	3.4%	17.9%	25.0%	46.1%	6.7%	.2%	100.0%

表 IV-56 17)単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

			IV17単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	0	8	60	78	176	41	7	370
		現在のスポーツ実践の%	0.0%	2.2%	16.2%	21.1%	47.6%	11.1%	1.9%	100.0%
	未実施	度数	5	23	73	134	208	42	1	486
		現在のスポーツ実践の%	1.0%	4.7%	15.0%	27.6%	42.8%	8.6%	.2%	100.0%
合計		度数	5	31	133	212	384	83	8	856
		現在のスポーツ実践の%	.6%	3.6%	15.5%	24.8%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%

表 IV-57 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

			IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	1	8	76	96	154	32	3	370
		現在のスポーツ実践の%	.3%	2.2%	20.5%	25.9%	41.6%	8.6%	.8%	100.0%
	未実施	度数	8	24	98	144	173	38	1	486
		現在のスポーツ実践の%	1.6%	4.9%	20.2%	29.6%	35.6%	7.8%	.2%	100.0%
合計		度数	9	32	174	240	327	70	4	856
		現在のスポーツ実践の%	1.1%	3.7%	20.3%	28.0%	38.2%	8.2%	.5%	100.0%

表 IV-58 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

			IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
現在のスポーツ実践	実施	度数	2	12	66	93	151	41	5	370
		現在のスポーツ実践の%	.5%	3.2%	17.8%	25.1%	40.8%	11.1%	1.4%	100.0%
	未実施	度数	7	31	100	131	180	34	3	486
		現在のスポーツ実践の%	1.4%	6.4%	20.6%	27.0%	37.0%	7.0%	.6%	100.0%
合計		度数	9	43	166	224	331	75	8	856
		現在のスポーツ実践の%	1.1%	5.0%	19.4%	26.2%	38.7%	8.8%	.9%	100.0%

全体的に、現在スポーツ実践をしている人の方が体育授業に関する教師効力感を高く認識している傾向にあった。

4項 過去の体育授業に対するイメージと各項目のクロス集計

過去の体育授業に対するイメージと各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-59～表IV-77ようになった。いずれもカイ二乗検定の結果5%水準で有意な値を示した。

表 IV-59 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

		IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	2	4	59	89	209	59	6	428
		好意度の%	.5%	.9%	13.8%	20.8%	48.8%	13.8%	1.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	8	42	64	100	24	0	238
		好意度の%	0.0%	3.4%	17.6%	26.9%	42.0%	10.1%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	6	39	38	59	11	1	154
		好意度の%	0.0%	3.9%	25.3%	24.7%	38.3%	7.1%	.6%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	3	8	8	12	3	0	35
		好意度の%	2.9%	8.6%	22.9%	22.9%	34.3%	8.6%	0.0%	100.0%
合計	度数	3	21	148	199	380	97	7	855	
	好意度の%	.4%	2.5%	17.3%	23.3%	44.4%	11.3%	.8%	100.0%	

表 IV-60 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

		IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	0	8	49	91	218	60	2	428
		好意度の%	0.0%	1.9%	11.4%	21.3%	50.9%	14.0%	.5%	100.0%
	少し好きだった	度数	1	5	25	50	133	22	2	238
		好意度の%	.4%	2.1%	10.5%	21.0%	55.9%	9.2%	.8%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	5	31	37	69	12	0	154
		好意度の%	0.0%	3.2%	20.1%	24.0%	44.8%	7.8%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	0	10	12	8	4	0	35
		好意度の%	2.9%	0.0%	28.6%	34.3%	22.9%	11.4%	0.0%	100.0%
合計	度数	2	18	115	190	428	98	4	855	
	好意度の%	.2%	2.1%	13.5%	22.2%	50.1%	11.5%	.5%	100.0%	

表 IV-61 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

		IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	0	7	42	82	229	64	4	428
		好意度の%	0.0%	1.6%	9.8%	19.2%	53.5%	15.0%	.9%	100.0%
	少し好きだった	度数	1	3	33	53	124	22	2	238
		好意度の%	.4%	1.3%	13.9%	22.3%	52.1%	9.2%	.8%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	3	29	35	75	12	0	154
		好意度の%	0.0%	1.9%	18.8%	22.7%	48.7%	7.8%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	2	4	8	13	7	0	35
		好意度の%	2.9%	5.7%	11.4%	22.9%	37.1%	20.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	2	15	108	178	441	105	6	855	
	好意度の%	.2%	1.8%	12.6%	20.8%	51.6%	12.3%	.7%	100.0%	

表 IV-62 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

		IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	1	7	53	89	196	77	5	428
		好意度の%	.2%	1.6%	12.4%	20.8%	45.8%	18.0%	1.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	10	44	56	101	26	1	238
		好意度の%	0.0%	4.2%	18.5%	23.5%	42.4%	10.9%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	5	31	42	60	15	0	154
		好意度の%	.6%	3.2%	20.1%	27.3%	39.0%	9.7%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	5	7	9	10	3	0	35
		好意度の%	2.9%	14.3%	20.0%	25.7%	28.6%	8.6%	0.0%	100.0%
合計	度数	3	27	135	196	367	121	6	855	
	好意度の%	.4%	3.2%	15.8%	22.9%	42.9%	14.2%	.7%	100.0%	

表 IV-63 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

			IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	5	16	62	70	145	108	22	428
		好意度の%	1.2%	3.7%	14.5%	16.4%	33.9%	25.2%	5.1%	100.0%
	少し好きだった	度数	6	10	52	44	75	45	6	238
		好意度の%	2.5%	4.2%	21.8%	18.5%	31.5%	18.9%	2.5%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	8	26	38	51	25	3	154
		好意度の%	1.9%	5.2%	16.9%	24.7%	33.1%	16.2%	1.9%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	4	3	4	7	13	3	1	35
		好意度の%	11.4%	8.6%	11.4%	20.0%	37.1%	8.6%	2.9%	100.0%
合計	度数	18	37	144	159	284	181	32	855	
	好意度の%	2.1%	4.3%	16.8%	18.6%	33.2%	21.2%	3.7%	100.0%	

表 IV-64 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

			IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	2	12	73	117	181	38	5	428
		好意度の%	.5%	2.8%	17.1%	27.3%	42.3%	8.9%	1.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	11	68	60	86	9	2	238
		好意度の%	.8%	4.6%	28.6%	25.2%	36.1%	3.8%	.8%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	2	8	50	57	31	5	1	154
		好意度の%	1.3%	5.2%	32.5%	37.0%	20.1%	3.2%	.6%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	3	2	11	10	7	2	0	35
		好意度の%	8.6%	5.7%	31.4%	28.6%	20.0%	5.7%	0.0%	100.0%
合計	度数	9	33	202	244	305	54	8	855	
	好意度の%	1.1%	3.9%	23.6%	28.5%	35.7%	6.3%	.9%	100.0%	

表 IV-65 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

			IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	1	13	77	133	158	45	1	428
		好意度の%	.2%	3.0%	18.0%	31.1%	36.9%	10.5%	.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	10	64	79	65	17	1	238
		好意度の%	.8%	4.2%	26.9%	33.2%	27.3%	7.1%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	4	4	52	59	25	10	0	154
		好意度の%	2.6%	2.6%	33.8%	38.3%	16.2%	6.5%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	3	5	7	16	3	1	0	35
		好意度の%	8.6%	14.3%	20.0%	45.7%	8.6%	2.9%	0.0%	100.0%
合計	度数	10	32	200	287	251	73	2	855	
	好意度の%	1.2%	3.7%	23.4%	33.6%	29.4%	8.5%	.2%	100.0%	

表 IV-66 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

			IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	2	24	123	127	121	29	2	428
		好意度の%	.5%	5.6%	28.7%	29.7%	28.3%	6.8%	.5%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	23	81	68	55	9	0	238
		好意度の%	.8%	9.7%	34.0%	28.6%	23.1%	3.8%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	6	17	55	52	21	3	0	154
		好意度の%	3.9%	11.0%	35.7%	33.8%	13.6%	1.9%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	6	5	8	12	3	1	0	35
		好意度の%	17.1%	14.3%	22.9%	34.3%	8.6%	2.9%	0.0%	100.0%
合計	度数	16	69	267	259	200	42	2	855	
	好意度の%	1.9%	8.1%	31.2%	30.3%	23.4%	4.9%	.2%	100.0%	

表 IV-67 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

			IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	13	35	96	106	128	46	4	428
		好意度の%	3.0%	8.2%	22.4%	24.8%	29.9%	10.7%	.9%	100.0%
	少し好きだった	度数	12	35	64	52	61	12	2	238
		好意度の%	5.0%	14.7%	26.9%	21.8%	25.6%	5.0%	.8%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	5	23	60	37	24	5	0	154
		好意度の%	3.2%	14.9%	39.0%	24.0%	15.6%	3.2%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	7	5	7	9	5	1	1	35	
	好意度の%	20.0%	14.3%	20.0%	25.7%	14.3%	2.9%	2.9%	100.0%	
合計		度数	37	98	227	204	218	64	7	855
		好意度の%	4.3%	11.5%	26.5%	23.9%	25.5%	7.5%	.8%	100.0%

表 IV-68 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

			IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	25	64	117	100	101	21	0	428
		好意度の%	5.8%	15.0%	27.3%	23.4%	23.6%	4.9%	0.0%	100.0%
	少し好きだった	度数	18	36	78	49	47	8	2	238
		好意度の%	7.6%	15.1%	32.8%	20.6%	19.7%	3.4%	.8%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	6	22	53	39	26	8	0	154
		好意度の%	3.9%	14.3%	34.4%	25.3%	16.9%	5.2%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	5	8	8	8	4	1	1	35	
	好意度の%	14.3%	22.9%	22.9%	22.9%	11.4%	2.9%	2.9%	100.0%	
合計		度数	54	130	256	196	178	38	3	855
		好意度の%	6.3%	15.2%	29.9%	22.9%	20.8%	4.4%	.4%	100.0%

表 IV-69 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

			IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	2	24	97	113	157	26	9	428
		好意度の%	.5%	5.6%	22.7%	26.4%	36.7%	6.1%	2.1%	100.0%
	少し好きだった	度数	7	15	60	71	77	7	1	238
		好意度の%	2.9%	6.3%	25.2%	29.8%	32.4%	2.9%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	12	49	52	37	1	0	154
		好意度の%	1.9%	7.8%	31.8%	33.8%	24.0%	.6%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	4	6	10	8	6	1	0	35	
	好意度の%	11.4%	17.1%	28.6%	22.9%	17.1%	2.9%	0.0%	100.0%	
合計		度数	16	57	216	244	277	35	10	855
		好意度の%	1.9%	6.7%	25.3%	28.5%	32.4%	4.1%	1.2%	100.0%

表 IV-70 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	2	13	97	135	154	26	1	428
		好意度の%	.5%	3.0%	22.7%	31.5%	36.0%	6.1%	.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	4	13	56	83	74	8	0	238
		好意度の%	1.7%	5.5%	23.5%	34.9%	31.1%	3.4%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	9	50	63	28	3	0	154
		好意度の%	.6%	5.8%	32.5%	40.9%	18.2%	1.9%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	3	6	8	11	6	1	0	35	
	好意度の%	8.6%	17.1%	22.9%	31.4%	17.1%	2.9%	0.0%	100.0%	
合計		度数	10	41	211	292	262	38	1	855
		好意度の%	1.2%	4.8%	24.7%	34.2%	30.6%	4.4%	.1%	100.0%

表 IV-71 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	1	4	13	41	227	125	17	428
		好意度の%	.2%	.9%	3.0%	9.6%	53.0%	29.2%	4.0%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	4	9	26	136	55	8	238
		好意度の%	0.0%	1.7%	3.8%	10.9%	57.1%	23.1%	3.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	3	10	28	81	30	2	154
		好意度の%	0.0%	1.9%	6.5%	18.2%	52.6%	19.5%	1.3%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	3	0	7	14	10	0	35
		好意度の%	2.9%	8.6%	0.0%	20.0%	40.0%	28.6%	0.0%	100.0%
合計	度数	2	14	32	102	458	220	27	855	
	好意度の%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.6%	25.7%	3.2%	100.0%	

表 IV-72 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	1	7	59	129	195	35	2	428
		好意度の%	.2%	1.6%	13.8%	30.1%	45.6%	8.2%	.5%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	5	43	86	81	21	0	238
		好意度の%	.8%	2.1%	18.1%	36.1%	34.0%	8.8%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	7	33	62	47	4	0	154
		好意度の%	.6%	4.5%	21.4%	40.3%	30.5%	2.6%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	2	3	4	15	7	4	0	35
		好意度の%	5.7%	8.6%	11.4%	42.9%	20.0%	11.4%	0.0%	100.0%
合計	度数	6	22	139	292	330	64	2	855	
	好意度の%	.7%	2.6%	16.3%	34.2%	38.6%	7.5%	.2%	100.0%	

表 IV-73 15)体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	3	22	97	149	128	27	2	428
		好意度の%	.7%	5.1%	22.7%	34.8%	29.9%	6.3%	.5%	100.0%
	少し好きだった	度数	5	20	66	75	62	9	1	238
		好意度の%	2.1%	8.4%	27.7%	31.5%	26.1%	3.8%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	14	53	57	26	1	0	154
		好意度の%	1.9%	9.1%	34.4%	37.0%	16.9%	.6%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	5	6	6	10	6	2	0	35
		好意度の%	14.3%	17.1%	17.1%	28.6%	17.1%	5.7%	0.0%	100.0%
合計	度数	16	62	222	291	222	39	3	855	
	好意度の%	1.9%	7.3%	26.0%	34.0%	26.0%	4.6%	.4%	100.0%	

表 IV-74 16)子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	0	8	66	95	218	39	2	428
		好意度の%	0.0%	1.9%	15.4%	22.2%	50.9%	9.1%	.5%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	9	41	64	112	10	0	238
		好意度の%	.8%	3.8%	17.2%	26.9%	47.1%	4.2%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	7	39	46	56	6	0	154
		好意度の%	0.0%	4.5%	25.3%	29.9%	36.4%	3.9%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	4	5	7	8	9	2	0	35
		好意度の%	11.4%	14.3%	20.0%	22.9%	25.7%	5.7%	0.0%	100.0%
合計	度数	6	29	153	213	395	57	2	855	
	好意度の%	.7%	3.4%	17.9%	24.9%	46.2%	6.7%	.2%	100.0%	

表 IV-75 17)単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

		IV17単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	1	9	67	93	197	57	4	428
		好意度の%	.2%	2.1%	15.7%	21.7%	46.0%	13.3%	.9%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	10	34	67	103	18	4	238
		好意度の%	.8%	4.2%	14.3%	28.2%	43.3%	7.6%	1.7%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	6	28	42	71	7	0	154
		好意度の%	0.0%	3.9%	18.2%	27.3%	46.1%	4.5%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	2	6	5	8	13	1	0	35	
	好意度の%	5.7%	17.1%	14.3%	22.9%	37.1%	2.9%	0.0%	100.0%	
合計		度数	5	31	134	210	384	83	8	855
		好意度の%	.6%	3.6%	15.7%	24.6%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%

表 IV-76 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

		IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	2	6	80	113	180	44	3	428
		好意度の%	.5%	1.4%	18.7%	26.4%	42.1%	10.3%	.7%	100.0%
	少し好きだった	度数	3	11	57	65	82	19	1	238
		好意度の%	1.3%	4.6%	23.9%	27.3%	34.5%	8.0%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	9	27	57	55	6	0	154
		好意度の%	0.0%	5.8%	17.5%	37.0%	35.7%	3.9%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	4	6	9	5	9	2	0	35	
	好意度の%	11.4%	17.1%	25.7%	14.3%	25.7%	5.7%	0.0%	100.0%	
合計		度数	9	32	173	240	326	71	4	855
		好意度の%	1.1%	3.7%	20.2%	28.1%	38.1%	8.3%	.5%	100.0%

表 IV-77 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

		IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる							合計	
		全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる		
過去の体育授業 好意度	とても好きだった	度数	3	10	83	99	183	42	8	428
		好意度の%	.7%	2.3%	19.4%	23.1%	42.8%	9.8%	1.9%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	16	45	69	87	19	0	238
		好意度の%	.8%	6.7%	18.9%	29.0%	36.6%	8.0%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	2	10	32	46	52	12	0	154
		好意度の%	1.3%	6.5%	20.8%	29.9%	33.8%	7.8%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	2	7	4	10	10	2	0	35	
	好意度の%	5.7%	20.0%	11.4%	28.6%	28.6%	5.7%	0.0%	100.0%	
合計		度数	9	43	164	224	332	75	8	855
		好意度の%	1.1%	5.0%	19.2%	26.2%	38.8%	8.8%	.9%	100.0%

全体的に、過去に受けた体育授業に対して好意を持っている人の方が体育授業に関する教師効力感を高く認知する傾向にあった。

5項 過去の運動・スポーツ好感度と各項目のクロス集計

過去の運動・スポーツに対する好感度と各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-78～表IV-96 ようになった。いずれもカイ二乗検定の結果 5%水準で有意な値を示した。

表 IV-78 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

			IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	2	5	74	107	245	70	6	509
		過去のスポーツの%	.4%	1.0%	14.5%	21.0%	48.1%	13.8%	1.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	8	44	64	88	18	1	223
		過去のスポーツの%	0.0%	3.6%	19.7%	28.7%	39.5%	8.1%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	6	27	22	40	7	0	102
		過去のスポーツの%	0.0%	5.9%	26.5%	21.6%	39.2%	6.9%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	2	3	7	8	2	0	23
		過去のスポーツの%	4.3%	8.7%	13.0%	30.4%	34.8%	8.7%	0.0%	100.0%
合計	度数	3	21	148	200	381	97	7	857	
	過去のスポーツの%	.4%	2.5%	17.3%	23.3%	44.5%	11.3%	.8%	100.0%	

表 IV-79 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

			IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	10	57	106	261	72	2	509
		過去のスポーツの%	.2%	2.0%	11.2%	20.8%	51.3%	14.1%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	3	31	52	118	17	2	223
		過去のスポーツの%	0.0%	1.3%	13.9%	23.3%	52.9%	7.6%	.9%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	5	23	25	42	7	0	102
		過去のスポーツの%	0.0%	4.9%	22.5%	24.5%	41.2%	6.9%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	0	5	8	7	2	0	23
		過去のスポーツの%	4.3%	0.0%	21.7%	34.8%	30.4%	8.7%	0.0%	100.0%
合計	度数	2	18	116	191	428	98	4	857	
	過去のスポーツの%	.2%	2.1%	13.5%	22.3%	49.9%	11.4%	.5%	100.0%	

表 IV-80 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

			IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	0	8	56	101	263	77	4	509
		過去のスポーツの%	0.0%	1.6%	11.0%	19.8%	51.7%	15.1%	.8%	100.0%
	少し好きだった	度数	1	2	32	45	127	14	2	223
		過去のスポーツの%	.4%	.9%	14.3%	20.2%	57.0%	6.3%	.9%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	4	19	27	41	11	0	102
		過去のスポーツの%	0.0%	3.9%	18.6%	26.5%	40.2%	10.8%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	1	1	5	12	3	0	23
		過去のスポーツの%	4.3%	4.3%	4.3%	21.7%	52.2%	13.0%	0.0%	100.0%
合計	度数	2	15	108	178	443	105	6	857	
	過去のスポーツの%	.2%	1.8%	12.6%	20.8%	51.7%	12.3%	.7%	100.0%	

表 IV-81 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

			IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	10	65	112	228	87	6	509
		過去のスポーツの%	.2%	2.0%	12.8%	22.0%	44.8%	17.1%	1.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	8	41	53	96	25	0	223
		過去のスポーツの%	0.0%	3.6%	18.4%	23.8%	43.0%	11.2%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	7	23	25	38	8	0	102
		過去のスポーツの%	1.0%	6.9%	22.5%	24.5%	37.3%	7.8%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	2	6	6	6	2	0	23
		過去のスポーツの%	4.3%	8.7%	26.1%	26.1%	26.1%	8.7%	0.0%	100.0%
合計	度数	3	27	135	196	368	122	6	857	
	過去のスポーツの%	.4%	3.2%	15.8%	22.9%	42.9%	14.2%	.7%	100.0%	

表 IV-82 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

			IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	6	18	77	86	174	123	25	509
		過去のスポーツの%	1.2%	3.5%	15.1%	16.9%	34.2%	24.2%	4.9%	100.0%
	少し好きだった	度数	6	11	49	43	67	42	5	223
		過去のスポーツの%	2.7%	4.9%	22.0%	19.3%	30.0%	18.8%	2.2%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	6	16	25	35	15	2	102
		過去のスポーツの%	2.9%	5.9%	15.7%	24.5%	34.3%	14.7%	2.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	3	2	2	6	8	1	1	23	
	過去のスポーツの%	13.0%	8.7%	8.7%	26.1%	34.8%	4.3%	4.3%	100.0%	
合計	度数	18	37	144	160	284	181	33	857	
	過去のスポーツの%	2.1%	4.3%	16.8%	18.7%	33.1%	21.1%	3.9%	100.0%	

表 IV-83 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

			IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	2	16	91	135	220	40	5	509
		過去のスポーツの%	.4%	3.1%	17.9%	26.5%	43.2%	7.9%	1.0%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	8	71	67	64	9	2	223
		過去のスポーツの%	.9%	3.6%	31.8%	30.0%	28.7%	4.0%	.9%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	7	34	38	15	4	1	102
		過去のスポーツの%	2.9%	6.9%	33.3%	37.3%	14.7%	3.9%	1.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	2	2	7	5	6	1	0	23	
	過去のスポーツの%	8.7%	8.7%	30.4%	21.7%	26.1%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計	度数	9	33	203	245	305	54	8	857	
	過去のスポーツの%	1.1%	3.9%	23.7%	28.6%	35.6%	6.3%	.9%	100.0%	

表 IV-84 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

			IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	15	98	163	180	50	2	509
		過去のスポーツの%	.2%	2.9%	19.3%	32.0%	35.4%	9.8%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	3	7	67	73	57	16	0	223
		過去のスポーツの%	1.3%	3.1%	30.0%	32.7%	25.6%	7.2%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	7	30	43	13	6	0	102
		過去のスポーツの%	2.9%	6.9%	29.4%	42.2%	12.7%	5.9%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	3	3	5	9	2	1	0	23	
	過去のスポーツの%	13.0%	13.0%	21.7%	39.1%	8.7%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計	度数	10	32	200	288	252	73	2	857	
	過去のスポーツの%	1.2%	3.7%	23.3%	33.6%	29.4%	8.5%	.2%	100.0%	

表 IV-85 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

			IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	2	35	146	149	140	35	2	509
		過去のスポーツの%	.4%	6.9%	28.7%	29.3%	27.5%	6.9%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	3	18	80	70	47	5	0	223
		過去のスポーツの%	1.3%	8.1%	35.9%	31.4%	21.1%	2.2%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	6	13	38	31	13	1	0	102
		過去のスポーツの%	5.9%	12.7%	37.3%	30.4%	12.7%	1.0%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	5	3	5	9	0	1	0	23	
	過去のスポーツの%	21.7%	13.0%	21.7%	39.1%	0.0%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計	度数	16	69	269	259	200	42	2	857	
	過去のスポーツの%	1.9%	8.1%	31.4%	30.2%	23.3%	4.9%	.2%	100.0%	

表 IV-86 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

			IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	15	46	121	122	147	53	5	509
		過去のスポーツの%	2.9%	9.0%	23.8%	24.0%	28.9%	10.4%	1.0%	100.0%
	少し好きだった	度数	11	31	62	59	52	7	1	223
		過去のスポーツの%	4.9%	13.9%	27.8%	26.5%	23.3%	3.1%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	6	18	41	17	17	3	0	102
		過去のスポーツの%	5.9%	17.6%	40.2%	16.7%	16.7%	2.9%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	5	3	5	6	2	1	1	23	
	過去のスポーツの%	21.7%	13.0%	21.7%	26.1%	8.7%	4.3%	4.3%	100.0%	
合計	度数	37	98	229	204	218	64	7	857	
	過去のスポーツの%	4.3%	11.4%	26.7%	23.8%	25.4%	7.5%	.8%	100.0%	

表 IV-87 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

			IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	31	76	144	118	114	25	1	509
		過去のスポーツの%	6.1%	14.9%	28.3%	23.2%	22.4%	4.9%	.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	14	29	78	47	45	9	1	223
		過去のスポーツの%	6.3%	13.0%	35.0%	21.1%	20.2%	4.0%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	4	21	32	25	16	3	1	102
		過去のスポーツの%	3.9%	20.6%	31.4%	24.5%	15.7%	2.9%	1.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	5	4	3	6	4	1	0	23	
	過去のスポーツの%	21.7%	17.4%	13.0%	26.1%	17.4%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計	度数	54	130	257	196	179	38	3	857	
	過去のスポーツの%	6.3%	15.2%	30.0%	22.9%	20.9%	4.4%	.4%	100.0%	

表 IV-88 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

			IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	3	31	115	132	190	29	9	509
		過去のスポーツの%	.6%	6.1%	22.6%	25.9%	37.3%	5.7%	1.8%	100.0%
	少し好きだった	度数	7	9	61	78	63	4	1	223
		過去のスポーツの%	3.1%	4.0%	27.4%	35.0%	28.3%	1.8%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	3	13	36	29	20	1	0	102
		過去のスポーツの%	2.9%	12.7%	35.3%	28.4%	19.6%	1.0%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	3	4	5	6	4	1	0	23	
	過去のスポーツの%	13.0%	17.4%	21.7%	26.1%	17.4%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計	度数	16	57	217	245	277	35	10	857	
	過去のスポーツの%	1.9%	6.7%	25.3%	28.6%	32.3%	4.1%	1.2%	100.0%	

表 IV-89 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	2	19	111	166	180	30	1	509
		過去のスポーツの%	.4%	3.7%	21.8%	32.6%	35.4%	5.9%	.2%	100.0%
	少し好きだった	度数	4	9	61	83	61	5	0	223
		過去のスポーツの%	1.8%	4.0%	27.4%	37.2%	27.4%	2.2%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	2	9	35	36	18	2	0	102
		過去のスポーツの%	2.0%	8.8%	34.3%	35.3%	17.6%	2.0%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	2	5	4	8	3	1	0	23	
	過去のスポーツの%	8.7%	21.7%	17.4%	34.8%	13.0%	4.3%	0.0%	100.0%	
合計	度数	10	42	211	293	262	38	1	857	
	過去のスポーツの%	1.2%	4.9%	24.6%	34.2%	30.6%	4.4%	.1%	100.0%	

表 IV-90 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	5	17	48	272	147	19	509
		過去のスポーツの%	.2%	1.0%	3.3%	9.4%	53.4%	28.9%	3.7%	100.0%
	少し好きだった	度数	0	4	8	35	122	48	6	223
		過去のスポーツの%	0.0%	1.8%	3.6%	15.7%	54.7%	21.5%	2.7%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	3	7	16	57	17	2	102
		過去のスポーツの%	0.0%	2.9%	6.9%	15.7%	55.9%	16.7%	2.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	1	2	0	3	8	9	0	23	
	過去のスポーツの%	4.3%	8.7%	0.0%	13.0%	34.8%	39.1%	0.0%	100.0%	
合計	度数	2	14	32	102	459	221	27	857	
	過去のスポーツの%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.6%	25.8%	3.2%	100.0%	

表 IV-91 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常にあてはまる	
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	10	69	158	228	41	2	509
		過去のスポーツの%	.2%	2.0%	13.6%	31.0%	44.8%	8.1%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	4	44	87	73	13	0	223
		過去のスポーツの%	.9%	1.8%	19.7%	39.0%	32.7%	5.8%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	6	25	39	23	8	0	102
		過去のスポーツの%	1.0%	5.9%	24.5%	38.2%	22.5%	7.8%	0.0%	100.0%
全く好きではなかった	度数	2	2	1	9	7	2	0	23	
	過去のスポーツの%	8.7%	8.7%	4.3%	39.1%	30.4%	8.7%	0.0%	100.0%	
合計	度数	6	22	139	293	331	64	2	857	
	過去のスポーツの%	.7%	2.6%	16.2%	34.2%	38.6%	7.5%	.2%	100.0%	

表 IV-92 15)体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常にあてはまる
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	3	28	123	170	152	31	2	509
		過去のスポーツの%	.6%	5.5%	24.2%	33.4%	29.9%	6.1%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	6	20	59	82	49	6	1	223
		過去のスポーツの%	2.7%	9.0%	26.5%	36.8%	22.0%	2.7%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	4	9	37	34	17	1	0	102
		過去のスポーツの%	3.9%	8.8%	36.3%	33.3%	16.7%	1.0%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	3	6	3	6	4	1	0	23
		過去のスポーツの%	13.0%	26.1%	13.0%	26.1%	17.4%	4.3%	0.0%	100.0%
合計	度数	16	63	222	292	222	39	3	857	
	過去のスポーツの%	1.9%	7.4%	25.9%	34.1%	25.9%	4.6%	.4%	100.0%	

表 IV-93 16)子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常にあてはまる
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	0	12	83	115	253	44	2	509
		過去のスポーツの%	0.0%	2.4%	16.3%	22.6%	49.7%	8.6%	.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	8	39	63	104	7	0	223
		過去のスポーツの%	.9%	3.6%	17.5%	28.3%	46.6%	3.1%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	1	5	26	33	32	5	0	102
		過去のスポーツの%	1.0%	4.9%	25.5%	32.4%	31.4%	4.9%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	3	4	6	2	7	1	0	23
		過去のスポーツの%	13.0%	17.4%	26.1%	8.7%	30.4%	4.3%	0.0%	100.0%
合計	度数	6	29	154	213	396	57	2	857	
	過去のスポーツの%	.7%	3.4%	18.0%	24.9%	46.2%	6.7%	.2%	100.0%	

表 IV-94 17)単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

			IV17単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常にあてはまる
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	1	13	79	119	228	63	7	509
		過去のスポーツの%	.2%	2.6%	15.3%	23.4%	44.8%	12.4%	1.4%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	8	31	60	105	16	1	223
		過去のスポーツの%	.9%	3.6%	13.9%	26.9%	47.1%	7.2%	.4%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	6	21	30	42	3	0	102
		過去のスポーツの%	0.0%	5.9%	20.6%	29.4%	41.2%	2.9%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	2	4	4	2	10	1	0	23
		過去のスポーツの%	8.7%	17.4%	17.4%	8.7%	43.5%	4.3%	0.0%	100.0%
合計	度数	5	31	134	211	385	83	8	857	
	過去のスポーツの%	.6%	3.6%	15.6%	24.6%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%	

表 IV-95 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

			IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常にあてはまる
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	2	11	103	131	208	51	3	509
		過去のスポーツの%	.4%	2.2%	20.2%	25.7%	40.9%	10.0%	.6%	100.0%
	少し好きだった	度数	3	10	41	75	81	13	0	223
		過去のスポーツの%	1.3%	4.5%	18.4%	33.6%	36.3%	5.8%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	0	8	25	29	33	6	1	102
		過去のスポーツの%	0.0%	7.8%	24.5%	28.4%	32.4%	5.9%	1.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	4	3	5	5	5	1	0	23
		過去のスポーツの%	17.4%	13.0%	21.7%	21.7%	21.7%	4.3%	0.0%	100.0%
合計	度数	9	32	174	240	327	71	4	857	
	過去のスポーツの%	1.1%	3.7%	20.3%	28.0%	38.2%	8.3%	.5%	100.0%	

表 IV-96 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

			IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
過去の運動・スポーツ好感度	とても好きだった	度数	4	14	97	116	221	49	8	509
		過去のスポーツの%	8%	2.8%	19.1%	22.8%	43.4%	9.6%	1.6%	100.0%
	少し好きだった	度数	2	17	40	70	75	19	0	223
		過去のスポーツの%	.9%	7.6%	17.9%	31.4%	33.6%	8.5%	0.0%	100.0%
	あまり好きではなかった	度数	2	8	25	31	31	5	0	102
		過去のスポーツの%	2.0%	7.8%	24.5%	30.4%	30.4%	4.9%	0.0%	100.0%
	全く好きではなかった	度数	1	4	4	7	5	2	0	23
		過去のスポーツの%	4.3%	17.4%	17.4%	30.4%	21.7%	8.7%	0.0%	100.0%
合計	度数	9	43	166	224	332	75	8	857	
	過去のスポーツの%	1.1%	5.0%	19.4%	26.1%	38.7%	8.8%	.9%	100.0%	

全体的に、過去の運動・スポーツに対して好意を持っている人の方が体育授業に関する教師効力感を高く認知する傾向にあった。

6項 年代と各項目のクロス集計

年代と各項目間のクロス集計をしたところ、以下の表IV-97～表IV-115 のようになった。いずれもカイ二乗検定の結果5%水準で有意な値を示した。

表 IV-97 1)児童の実態に応じた道具を工夫することができる

			IV1児童の実態に応じた道具を工夫することができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
年代	20代	度数	2	7	55	66	116	10	0	256
		年代の%	.8%	2.7%	21.5%	25.8%	45.3%	3.9%	0.0%	100.0%
	30代	度数	0	7	28	37	84	24	1	181
		年代の%	0.0%	3.9%	15.5%	20.4%	46.4%	13.3%	.6%	100.0%
	40代	度数	0	4	32	46	82	18	2	184
		年代の%	0.0%	2.2%	17.4%	25.0%	44.6%	9.8%	1.1%	100.0%
	50代	度数	1	3	33	52	100	45	4	238
		年代の%	.4%	1.3%	13.9%	21.8%	42.0%	18.9%	1.7%	100.0%
	合計	度数	3	21	148	201	382	97	7	859
		年代の%	.3%	2.4%	17.2%	23.4%	44.5%	11.3%	.8%	100.0%

表 IV-98 2)もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる

			IV2もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
年代	20代	度数	0	8	48	67	117	16	0	256
		年代の%	0.0%	3.1%	18.8%	26.2%	45.7%	6.3%	0.0%	100.0%
	30代	度数	0	3	31	40	86	20	1	181
		年代の%	0.0%	1.7%	17.1%	22.1%	47.5%	11.0%	.6%	100.0%
	40代	度数	0	3	17	37	108	18	1	184
		年代の%	0.0%	1.6%	9.2%	20.1%	58.7%	9.8%	.5%	100.0%
	50代	度数	2	4	20	47	119	44	2	238
		年代の%	.8%	1.7%	8.4%	19.7%	50.0%	18.5%	.8%	100.0%
	合計	度数	2	18	116	191	430	98	4	859
		年代の%	.2%	2.1%	13.5%	22.2%	50.1%	11.4%	.5%	100.0%

表 IV-99 3)児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる

			IV3児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	0	8	48	68	111	20	1	256
		年代の%	0.0%	3.1%	18.8%	26.6%	43.4%	7.8%	.4%	100.0%
	30代	度数	0	4	24	34	102	17	0	181
		年代の%	0.0%	2.2%	13.3%	18.8%	56.4%	9.4%	0.0%	100.0%
	40代	度数	0	3	18	32	106	23	2	184
		年代の%	0.0%	1.6%	9.8%	17.4%	57.6%	12.5%	1.1%	100.0%
	50代	度数	2	0	18	44	126	45	3	238
		年代の%	.8%	0.0%	7.6%	18.5%	52.9%	18.9%	1.3%	100.0%
	合計	度数	2	15	108	178	445	105	6	859
		年代の%	.2%	1.7%	12.6%	20.7%	51.8%	12.2%	.7%	100.0%

表 IV-100 4)実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる

			IV4実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	1	15	68	62	91	18	1	256
		年代の%	.4%	5.9%	26.6%	24.2%	35.5%	7.0%	.4%	100.0%
	30代	度数	0	7	32	40	77	24	1	181
		年代の%	0.0%	3.9%	17.7%	22.1%	42.5%	13.3%	.6%	100.0%
	40代	度数	1	3	18	43	93	26	0	184
		年代の%	.5%	1.6%	9.8%	23.4%	50.5%	14.1%	0.0%	100.0%
	50代	度数	1	2	17	51	109	54	4	238
		年代の%	.4%	.8%	7.1%	21.4%	45.8%	22.7%	1.7%	100.0%
	合計	度数	3	27	135	196	370	122	6	859
		年代の%	.3%	3.1%	15.7%	22.8%	43.1%	14.2%	.7%	100.0%

表 IV-101 5)休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる

			IV5休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	6	17	56	38	86	44	9	256
		年代の%	2.3%	6.6%	21.9%	14.8%	33.6%	17.2%	3.5%	100.0%
	30代	度数	5	8	29	38	46	48	7	181
		年代の%	2.8%	4.4%	16.0%	21.0%	25.4%	26.5%	3.9%	100.0%
	40代	度数	2	9	32	35	66	33	7	184
		年代の%	1.1%	4.9%	17.4%	19.0%	35.9%	17.9%	3.8%	100.0%
	50代	度数	5	3	27	49	88	56	10	238
		年代の%	2.1%	1.3%	11.3%	20.6%	37.0%	23.5%	4.2%	100.0%
	合計	度数	18	37	144	160	286	181	33	859
		年代の%	2.1%	4.3%	16.8%	18.6%	33.3%	21.1%	3.8%	100.0%

表 IV-102 6)もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる

			IV6もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	4	18	79	74	69	12	0	256
		年代の%	1.6%	7.0%	30.9%	28.9%	27.0%	4.7%	0.0%	100.0%
	30代	度数	3	8	40	54	67	7	2	181
		年代の%	1.7%	4.4%	22.1%	29.8%	37.0%	3.9%	1.1%	100.0%
	40代	度数	1	3	39	61	70	8	2	184
		年代の%	.5%	1.6%	21.2%	33.2%	38.0%	4.3%	1.1%	100.0%
	50代	度数	1	4	45	57	100	27	4	238
		年代の%	.4%	1.7%	18.9%	23.9%	42.0%	11.3%	1.7%	100.0%
合計	度数	9	33	203	246	306	54	8	859	
	年代の%	1.0%	3.8%	23.6%	28.6%	35.6%	6.3%	.9%	100.0%	

表 IV-103 7)児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える

			IV7児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	6	17	89	82	55	7	0	256
		年代の%	2.3%	6.6%	34.8%	32.0%	21.5%	2.7%	0.0%	100.0%
	30代	度数	1	5	38	68	52	17	0	181
		年代の%	.6%	2.8%	21.0%	37.6%	28.7%	9.4%	0.0%	100.0%
	40代	度数	2	4	36	69	59	13	1	184
		年代の%	1.1%	2.2%	19.6%	37.5%	32.1%	7.1%	.5%	100.0%
	50代	度数	1	6	37	69	88	36	1	238
		年代の%	.4%	2.5%	15.5%	29.0%	37.0%	15.1%	.4%	100.0%
合計	度数	10	32	200	288	254	73	2	859	
	年代の%	1.2%	3.7%	23.3%	33.5%	29.6%	8.5%	.2%	100.0%	

表 IV-104 8)授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている

			IV8授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	6	39	118	60	29	4	0	256
		年代の%	2.3%	15.2%	46.1%	23.4%	11.3%	1.6%	0.0%	100.0%
	30代	度数	4	11	57	53	50	5	1	181
		年代の%	2.2%	6.1%	31.5%	29.3%	27.6%	2.8%	.6%	100.0%
	40代	度数	5	12	51	57	51	8	0	184
		年代の%	2.7%	6.5%	27.7%	31.0%	27.7%	4.3%	0.0%	100.0%
	50代	度数	1	7	44	89	71	25	1	238
		年代の%	.4%	2.9%	18.5%	37.4%	29.8%	10.5%	.4%	100.0%
合計	度数	16	69	270	259	201	42	2	859	
	年代の%	1.9%	8.0%	31.4%	30.2%	23.4%	4.9%	.2%	100.0%	

表 IV-105 9)必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる

			IV9必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
年代	20代	度数	14	49	83	52	46	12	0	256
		年代の%	5.5%	19.1%	32.4%	20.3%	18.0%	4.7%	0.0%	100.0%
	30代	度数	9	19	45	43	50	14	1	181
		年代の%	5.0%	10.5%	24.9%	23.8%	27.6%	7.7%	.6%	100.0%
	40代	度数	7	16	52	45	49	14	1	184
		年代の%	3.8%	8.7%	28.3%	24.5%	26.6%	7.6%	.5%	100.0%
	50代	度数	7	14	50	65	73	24	5	238
		年代の%	2.9%	5.9%	21.0%	27.3%	30.7%	10.1%	2.1%	100.0%
	合計	度数	37	98	230	205	218	64	7	859
		年代の%	4.3%	11.4%	26.8%	23.9%	25.4%	7.5%	.8%	100.0%

表 IV-106 10)ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる

			IV10ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
年代	20代	度数	18	55	91	45	40	6	1	256
		年代の%	7.0%	21.5%	35.5%	17.6%	15.6%	2.3%	.4%	100.0%
	30代	度数	15	25	43	42	48	8	0	181
		年代の%	8.3%	13.8%	23.8%	23.2%	26.5%	4.4%	0.0%	100.0%
	40代	度数	12	23	59	39	40	11	0	184
		年代の%	6.5%	12.5%	32.1%	21.2%	21.7%	6.0%	0.0%	100.0%
	50代	度数	9	27	65	71	51	13	2	238
		年代の%	3.8%	11.3%	27.3%	29.8%	21.4%	5.5%	.8%	100.0%
	合計	度数	54	130	258	197	179	38	3	859
		年代の%	6.3%	15.1%	30.0%	22.9%	20.8%	4.4%	.3%	100.0%

表 IV-107 11)身体感覚イメージを子どもに伝えることができる

			IV11身体感覚イメージを子どもに伝えることができる						合計	
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる		非常によくあてはまる
年代	20代	度数	7	25	86	62	65	11	0	256
		年代の%	2.7%	9.8%	33.6%	24.2%	25.4%	4.3%	0.0%	100.0%
	30代	度数	4	15	40	44	71	3	4	181
		年代の%	2.2%	8.3%	22.1%	24.3%	39.2%	1.7%	2.2%	100.0%
	40代	度数	3	8	42	65	59	6	1	184
		年代の%	1.6%	4.3%	22.8%	35.3%	32.1%	3.3%	.5%	100.0%
	50代	度数	2	9	49	75	83	15	5	238
		年代の%	.8%	3.8%	20.6%	31.5%	34.9%	6.3%	2.1%	100.0%
	合計	度数	16	57	217	246	278	35	10	859
		年代の%	1.9%	6.6%	25.3%	28.6%	32.4%	4.1%	1.2%	100.0%

表 IV-108 12)子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる

			IV12子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	5	14	92	82	55	8	0	256
		年代の%	2.0%	5.5%	35.9%	32.0%	21.5%	3.1%	0.0%	100.0%
	30代	度数	2	12	41	56	64	5	1	181
		年代の%	1.1%	6.6%	22.7%	30.9%	35.4%	2.8%	.6%	100.0%
	40代	度数	2	8	44	66	55	9	0	184
		年代の%	1.1%	4.3%	23.9%	35.9%	29.9%	4.9%	0.0%	100.0%
	50代	度数	1	8	34	90	89	16	0	238
		年代の%	.4%	3.4%	14.3%	37.8%	37.4%	6.7%	0.0%	100.0%
	合計	度数	10	42	211	294	263	38	1	859
		年代の%	1.2%	4.9%	24.6%	34.2%	30.6%	4.4%	.1%	100.0%

表 IV-109 13)状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる

			IV13状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	0	5	16	46	136	47	6	256
		年代の%	0.0%	2.0%	6.3%	18.0%	53.1%	18.4%	2.3%	100.0%
	30代	度数	0	5	9	22	99	44	2	181
		年代の%	0.0%	2.8%	5.0%	12.2%	54.7%	24.3%	1.1%	100.0%
	40代	度数	1	2	5	12	114	41	9	184
		年代の%	.5%	1.1%	2.7%	6.5%	62.0%	22.3%	4.9%	100.0%
	50代	度数	1	2	2	22	112	89	10	238
		年代の%	.4%	.8%	.8%	9.2%	47.1%	37.4%	4.2%	100.0%
	合計	度数	2	14	32	102	461	221	27	859
		年代の%	.2%	1.6%	3.7%	11.9%	53.7%	25.7%	3.1%	100.0%

表 IV-110 14)特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる

			IV14特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	3	9	61	95	81	7	0	256
		年代の%	1.2%	3.5%	23.8%	37.1%	31.6%	2.7%	0.0%	100.0%
	30代	度数	1	8	25	62	72	12	1	181
		年代の%	.6%	4.4%	13.8%	34.3%	39.8%	6.6%	.6%	100.0%
	40代	度数	1	2	30	63	78	10	0	184
		年代の%	.5%	1.1%	16.3%	34.2%	42.4%	5.4%	0.0%	100.0%
	50代	度数	1	3	24	74	100	35	1	238
		年代の%	.4%	1.3%	10.1%	31.1%	42.0%	14.7%	.4%	100.0%
	合計	度数	6	22	140	294	331	64	2	859
		年代の%	.7%	2.6%	16.3%	34.2%	38.5%	7.5%	.2%	100.0%

表 IV-111 15) 体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる

			IV15 体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	8	24	88	73	55	8	0	256
		年代の%	3.1%	9.4%	34.4%	28.5%	21.5%	3.1%	0.0%	100.0%
	30代	度数	2	18	36	67	49	8	1	181
		年代の%	1.1%	9.9%	19.9%	37.0%	27.1%	4.4%	.6%	100.0%
	40代	度数	2	8	51	68	45	9	1	184
		年代の%	1.1%	4.3%	27.7%	37.0%	24.5%	4.9%	.5%	100.0%
	50代	度数	4	13	47	85	74	14	1	238
		年代の%	1.7%	5.5%	19.7%	35.7%	31.1%	5.9%	.4%	100.0%
	合計	度数	16	63	222	293	223	39	3	859
		年代の%	1.9%	7.3%	25.8%	34.1%	26.0%	4.5%	.3%	100.0%

表 IV-112 16) 子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる

			IV16 子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	2	9	68	59	105	12	1	256
		年代の%	.8%	3.5%	26.6%	23.0%	41.0%	4.7%	.4%	100.0%
	30代	度数	1	10	25	47	85	12	1	181
		年代の%	.6%	5.5%	13.8%	26.0%	47.0%	6.6%	.6%	100.0%
	40代	度数	0	5	31	53	81	14	0	184
		年代の%	0.0%	2.7%	16.8%	28.8%	44.0%	7.6%	0.0%	100.0%
	50代	度数	3	5	30	55	126	19	0	238
		年代の%	1.3%	2.1%	12.6%	23.1%	52.9%	8.0%	0.0%	100.0%
	合計	度数	6	29	154	214	397	57	2	859
		年代の%	.7%	3.4%	17.9%	24.9%	46.2%	6.6%	.2%	100.0%

表 IV-113 17) 単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる

			IV17 単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	2	12	62	74	95	10	1	256
		年代の%	.8%	4.7%	24.2%	28.9%	37.1%	3.9%	.4%	100.0%
	30代	度数	1	9	28	39	89	14	1	181
		年代の%	.6%	5.0%	15.5%	21.5%	49.2%	7.7%	.6%	100.0%
	40代	度数	1	5	24	51	79	23	1	184
		年代の%	.5%	2.7%	13.0%	27.7%	42.9%	12.5%	.5%	100.0%
	50代	度数	1	5	20	48	123	36	5	238
		年代の%	.4%	2.1%	8.4%	20.2%	51.7%	15.1%	2.1%	100.0%
	合計	度数	5	31	134	212	386	83	8	859
		年代の%	.6%	3.6%	15.6%	24.7%	44.9%	9.7%	.9%	100.0%

表 IV-114 18)グループ学習をうまくコーディネートすることができる

			IV18グループ学習をうまくコーディネートすることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	3	14	82	76	72	9	0	256
		年代の%	1.2%	5.5%	32.0%	29.7%	28.1%	3.5%	0.0%	100.0%
	30代	度数	1	11	30	58	69	10	2	181
		年代の%	.6%	6.1%	16.6%	32.0%	38.1%	5.5%	1.1%	100.0%
	40代	度数	3	3	35	43	82	18	0	184
		年代の%	1.6%	1.6%	19.0%	23.4%	44.6%	9.8%	0.0%	100.0%
	50代	度数	2	4	27	64	105	34	2	238
		年代の%	.8%	1.7%	11.3%	26.9%	44.1%	14.3%	.8%	100.0%
	合計	度数	9	32	174	241	328	71	4	859
		年代の%	1.0%	3.7%	20.3%	28.1%	38.2%	8.3%	.5%	100.0%

表 IV-115 19)自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる

			IV19自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる							合計
			全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	かなりあてはまる	非常によくあてはまる	
年代	20代	度数	2	19	65	69	82	17	2	256
		年代の%	.8%	7.4%	25.4%	27.0%	32.0%	6.6%	.8%	100.0%
	30代	度数	4	14	30	48	70	12	3	181
		年代の%	2.2%	7.7%	16.6%	26.5%	38.7%	6.6%	1.7%	100.0%
	40代	度数	2	3	38	48	77	14	2	184
		年代の%	1.1%	1.6%	20.7%	26.1%	41.8%	7.6%	1.1%	100.0%
	50代	度数	1	7	34	59	104	32	1	238
		年代の%	.4%	2.9%	14.3%	24.8%	43.7%	13.4%	.4%	100.0%
	合計	度数	9	43	167	224	333	75	8	859
		年代の%	1.0%	5.0%	19.4%	26.1%	38.8%	8.7%	.9%	100.0%

項目ごとによって、教師効力感の捉え方に異なった傾向があり、30代、50代の教員が高く認知する傾向のあるものや、50代の教員が高く認知する傾向にあるものなど、内容によって違いがあることが明らかとなった。

7項 クラスタ分析

上記の結果を受けて、項目間のまとまりについてクラスタ分析(ユークリッド距離法、Ward法)を行うこととした。その結果、以下の図IV-1のようになった。なお、分析の過程で質問5(休み時間などを使って準備し、活動時間を保証することができる)と質問10(ICTなどを積極的に取り入れるなど、児童の授業への参加意欲を高める指導法の工夫をすることができる)については、解釈が十分にできない分類になったため削除した。その理由は、休み時間を使わなくても準備ができる教師の存在や、ICTなどは学校ごとの環境に依存するといったことがあり、現在の教師が置かれている現状にばらつきがあると考えられる。この点については、今後の検討課題としたい。

クラスタは、解釈可能性を考慮し距離クラスタ10のところでは線引きをしたため、3つのクラスタに分類できた。

第一クラスタは、質問11(身体感覚イメージを子どもに伝えることができる)、質問12(子どもが新しいことを体感するために、必要な手立てを見つけることができる)、質問15(体育で学んだ内容を、様々な場面に生かせるような機会を準備することができる)、質問6(もし児童が学習につまずいた場合、なぜできないのか、また、どうすればできるようになるのかを正確に判断できる)、質問7(児童を惹きつけるメリハリのある授業展開を行える)、質問14(特性や魅力に応じて子どもたちの学ぶ力を伸ばすことができる)、質問8(授業を行うにあたっての十分な知識・教養を持っている)、質問9(必要に応じて指導書にない内容でオリジナルな授業づくりができる)となった。以上のことから、第一クラスタは、子ども達に特性や魅力といった内容を伝達できるかどうかに関わった項目が集まっていることから、

「魅力の伝達」とした。

第二クラスタは、質問 16(子どもが課題を発見し、自分たちで解決していけるように促すことができる)、質問 17(単元計画を工夫し、見通しを持って授業にのぞむことができる)、質問 18(グループ学習をうまくコーディネートすることができる)、質問 19(自分が苦手な種目でも、運動の特性や魅力を伝えることができる)、となった。以上のことから第二クラスタは、子ども同士の関係を構築していくことによってよりよい体育授業ができるような内容が含まれているため、「グループの構成」とした。

第三クラスタは、質問 2(もし児童が前時の学習がわかっていない時、次の時間にわかるように授業を工夫できる)、問 3(児童が与えられた課題について悩んでいるときに、児童のレベルに応じて課題を修正できる)、質質問 4(実態に応じた単元全体のイメージを持って、授業を計画することができる)、質問 1(児童の実態に応じた道具を工夫することができる)、質問 13(状況にあわせて安全に活動できるよう、配慮することができる)となった。第 3 因子については、子どもの学びをよりよいものに工夫していくことが集まったため、「学びのコーディネート」とした。

Ward 法を使用するデンドログラム

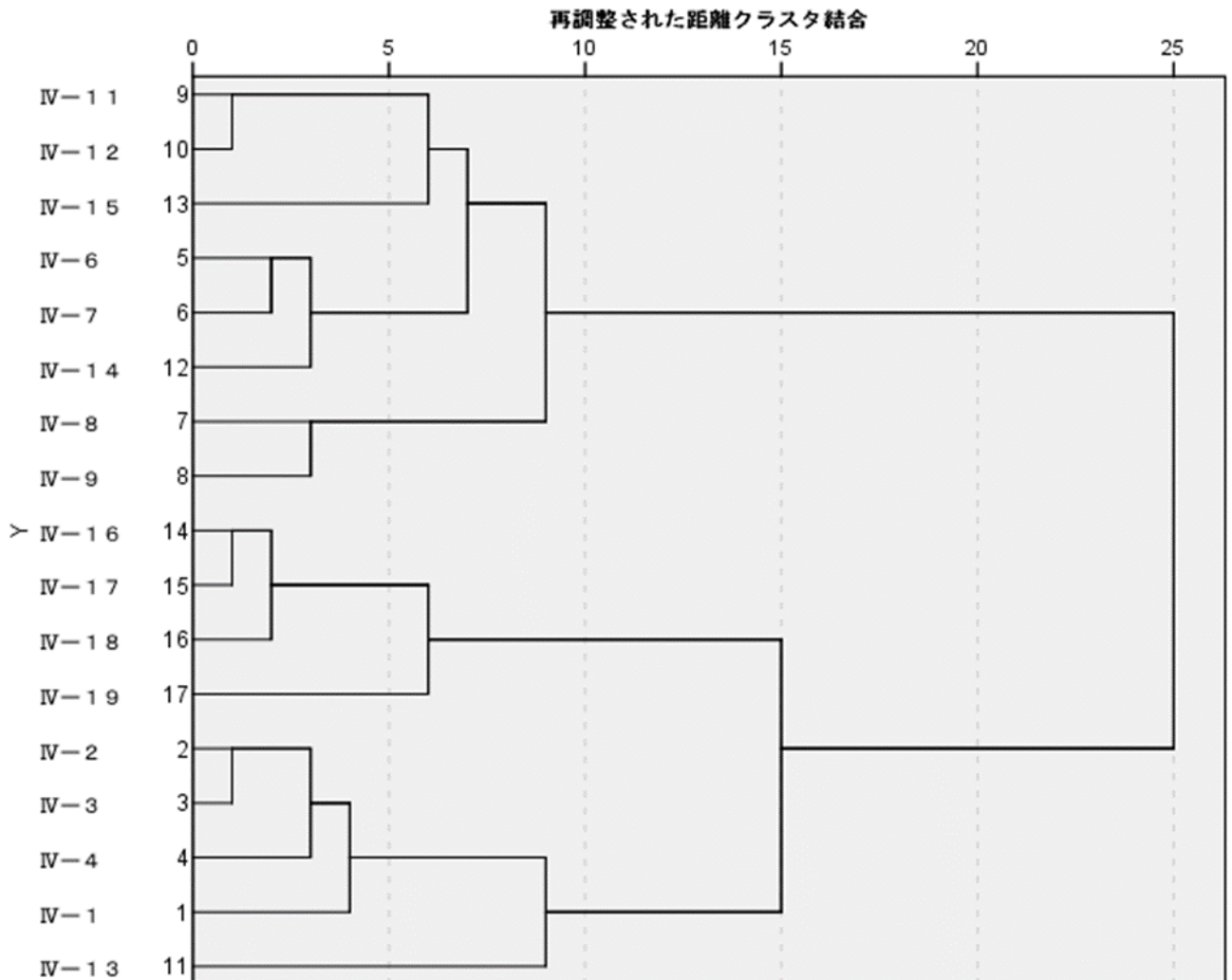


図 IV-1 クラスタ分析結果

6章 まとめ

本研究では教員に対して研修等を行ったりする中で、体育授業版教師効力感を高めることができるかという課題認識があり、そのために活用できる尺度開発が当初の目的であった。そこで、尺度を検討し、K市の教員に対して悉皆調査を行い、現在教員が体育授業における教師効力感をどのように認識しているのかについて検討してきた。一つ一つの項目での傾向を把握するため①性別、②体育授業の得意不得意意識、③現在のスポーツ実施、④過去の体育授業に対するイメージ、⑤過去の運動・スポーツ好感度、⑥年代とのクロス集計を行い、全体的な傾向として男性、得意意識、好感を持っている教員ほど、各項目の効力感を高く認識する傾向にあった。年代については、それぞれの項目によって異なり、経験によって効力が高まる可能性のあるものとそうでないものの存在があると考えられた。これらのことから、体育授業における教師効力感は、様々なカテゴリーによってどの程度の効力感が高いのかについては分布がわかれるため、今後の検討課題とし、尺度化され得点化されたときの標準を考慮する必要性が明らかとなった。

また、クラスタ分析の結果、3つのクラスタ「魅力の伝達」、「グループの構成」、「学びのコーディネート」を抽出することができた。今後、具体的な指導場面に活用していく際には、これらの情報を組み合わせながら検討していく必要性が認められた。

なお、尺度化についてはさらに検討を深め、項目の見直しをしながらデータを蓄積し、進めていくことが今後の課題として残された。

ⁱ Bandura, Albert.、1977、*Social Learning Theor.* Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall.(原野広太郎訳、1979、『社会的学習論-人間理解と教育の基礎-』、金子書房.)

ⁱⁱ池辺さやか・三國牧子、2014、「自己効力感研究の現状と今後の可能性」、『九州産業大学国際文化学部紀要』57、159-174.

ⁱⁱⁱ淵上克義・西村一生・広島県立久井高等学校、2004、「教師の協働的効力感に関する実証的研究」、教育学研究編『日本教師学会学会誌』、1-12.

^{iv}松田惺・鈴木眞雄、1997、「教師の自己効力感に関する基礎的研究」、教育科学編『愛知教育大学研究報告』46、57-65.

^v鈴木眞雄・松田惺・石田靖彦、2001、「教師の自己効力感のあり方を探る—総合的学習の時間に対する態度との関連から—」、教育科学編『愛知教育大学報告』50、51-57.

^{vi}谷島弘仁、2013、「教師の自己効力感がバーンアウトに及ぼす影響」、『生活科学研究』35、85-92.

^{vii}貝川直子・鈴木眞雄、2006、「教師バーンアウトと関連する学校組織特性、教師自己効力感」、教育科学編『愛知教育大学研究報告』55、61-69.

^{viii}伊藤美奈子、2000、「教師のバーンアウト傾向を規定する諸要因に関する探索的研究—経験年数・教育観タイプに着目して—」、『教育心理研究』48、12-20.

^{ix}白旗和也、2013、「小学校教員の体育科学習指導と行政作成資料の活用に関する研究」、『スポーツ教育学研究』32(2)、59-72.

^x 淵上克義、西村一生(2004)教師の協働的効力感に関する実証的研究、教師学研究、5・6、1-12.

第V部 本調査研究の総括

1章 各調査研究の概要

1節 研修プログラムの開発

本研究の目的は、体育の授業を実施するに当たって、苦手意識を持っている小学校教員を対象に実技研修と単元計画を作成する演習を実施し、授業づくりの見通しがもてるようにすることであった。

そこで、7時間プログラム及び5時間プログラムの2種類のプログラムを実施し、その効果を受講生に対するアンケート調査並びに講師の印象の点から検討した。第1章は、7時間プログラムの設定と実際について、徳島県、熊本県、東京都、及び福岡県の4地域6事例を用いて検討した。第2章は、5時間プログラムの設定と実際について、山口県及び鳥取県の2地域2事例を用いて検討した。受講者数は、409名（7時間プログラム323名、5時間プログラム88名）であった。

その結果、「講師が事前に立てたポイント」からわかるように、7時間、5時間の研修ともに、「教材の工夫の仕方」「単元計画・授業計画の作成」「効果的な指導法(技能)」「用具や場づくり」「指導内容の理解」については、どの研修においても、講師の視点から見て、概ね成果を得ることができたのとらえることができる。その論拠は、「アンケート調査の結果」の欄で、多くの設問に「そう思う」と回答した教師の割合が高いことから読み取ることができる。

しかし、講師の振り返りにもあったように、「学習指導要領の理解」「単元計画づくりについての理解」といった理論的側面については、「思う」という回答をする教師の割合が高くなっていったことから、時間的な制約はあるものの、教師のもつべき知識について、どのような研修プログラムを組むことが可能なかを検討することが課題として残された。加えて「具体的な動きのポイント」についても「思う」と回答する教師の割合が高かったことから、理論的・実践的な研修を通して、どのような活動があれば教師の理解を促進させることができるのかに関して、検討する余地が大いにあるという事実が確かめられた。

2節 研修プログラムの効果の検討

本研究の目的は、より効果的な教員研修の在り方を検討するための資料を収集するために、第Ⅱ部で実施した8回の研修の効果を属性等の観点から検討することであった。

そこで、2016(平成28)年7月～2017(平成29)年1月にかけて、東京都、徳島県、鳥取県、山口県、福岡県、熊本県で開催された、体づくり運動領域、ボール運動系領域の講義及び実技研修に参加した教員を対象に質問紙調査を実施した。調査対象教員数は、413名であった。

分析は、①教職歴、及び②体育部の所属有無の観点と回答のクロス集計を行った。

その結果、以下の7点が確認された。

- ① 学習指導要領の十分な理解については、教職歴が浅い教師、体育部以外の教師にとっては、今回の研修内容や時間のみでは課題が残ることが予想される。
- ② 領域の考え方の理解については、教職歴が浅い教師、体育部以外の教師にとっては、今回の研修内容や時間のみでは課題が残ることが予想される。
- ③ 指導内容の理解については、今回対象とした研修のような内容を通して十分な理解を導くことができる。
- ④ 教材の理解については、今回対象とした研修のような内容を通して、十分な理解を導くことができる。
- ⑤ 指導方法の理解については、教職歴が長い教師、体育部の教師が対象の場合、高い理解

度を導くことができる。

- ⑥ 単元計画づくりの理解については、教職歴が長い教師ほど高い理解度導くことができる。
- ⑦ 動きのポイントの理解については、教職歴・所属部会に関わらず、その理解度に若干の課題が残ることが予想される。

3節 教師の効力感に関する検討

本研究の目的は、教員に対する研修等において、体育授業版教師効力感を高めることができるかという課題認識のもと、活用できる尺度を開発することであった。

そこで、尺度を検討し、O 県 K 市の教員に対して悉皆調査を行い、現在教員が体育授業における教師効力感をどのように認識しているのかについて検討した。分析対象者は、回答の得られた 986 名（回収率 59.6%）のうち、有効回答である 859 名（男性 331 名（38.5%）、女性 527 名（61.5%））であった。

分析は、一つ一つの項目での傾向を把握するため①性別、②体育授業の得意不得意意識、③現在のスポーツ実施、④過去の体育授業に対するイメージ、⑤過去の運動・スポーツ好感度、⑥年代とのクロス集計を行った。

その結果、次の 2 点の傾向が示された。

- ① 男性、得意意識、好感を持っている教員ほど、各項目の効力感を高く認識する傾向にあった。
- ② 年代については、それぞれの項目によって異なり、経験によって効力が高まる可能性のあるものとそうでないものの存在が考えられた。

これらの結果から、体育授業における教師効力感は、様々なカテゴリーによってどの程度効力感が高いのかについては分布がわかれるため、今後の検討課題とし、尺度化され得点化されたときの標準を考慮する必要性が明らかとなった。

また、クラスタ分析の結果、3つのクラスタ「魅力の伝達」、「グループの構成」、「学びのコーディネート」を抽出することができた。

今後、具体的な指導場面に活用していく際には、これらの情報を組み合わせながら検討していく必要性が認められた。

なお、尺度化についてはさらに検討を深め、項目の見直しをしながらデータを蓄積し、進めていくことが今後の課題として残された。

2章 本調査研究のまとめ及び今後の検討課題

本研究の目的は、体育の授業を実施することに苦手意識を持っている小学校教員が、指導内容がしっかり身につく授業を展開できることにより、教師が自信と意欲を持って体育の授業に取り組み、結果として運動好きな子供を育て、体力の向上に寄与することを目指すものである。そのために、どの研修会でも効果を上げることができる研修プログラムを作成する。具体的には、以下の3つの観点から研究を行った。

- ① 体育の授業を実施するに当たって、苦手意識を持っている小学校教員が授業づくりの見通しがもてるようになるための実技研修と単元計画を作成し、その効果を検討する（第Ⅱ部）
- ② ①で実施する教員研修の効果及び課題を属性等の観点から詳細に検討すること。（第Ⅲ部）
- ③ 教員に対する研修等において、体育授業版教師効力感を高めることができるかという課題認識のもと、活用できる尺度を開発する（第Ⅳ部）

第Ⅱ部では、6地域8研修、受講者409名を対象に7時間プログラムあるいは5時間プログラムのプログラムを実施し、その効果を各研修の受講生に対するアンケート調査並びに講師の印象の点から検討した。その結果、「教材の工夫の仕方」、「単元計画・授業計画の作成」、「効果的な指導法(技能)」、「用具や場づくり」、及び、「指導内容の理解」については、どの研修においても、概ね成果を得ることができたと考えられる。

第Ⅲ部では、6地域8研修、受講者413名を対象に実施したアンケート調査の結果から、第Ⅱ部で実施した研修全体の効果を属性等の観点からより詳細に検討することであった。その結果、教員の①属性によって理解に課題が残る項目があること、②属性に関わらず理解に課題が残る項目があることが示された。

第Ⅳ部では、小学校教師の体育授業に対する自己効力感を測る尺度を検討し、859名の教師から得られた回答を分析し、現在教員が体育授業における教師効力感をどのように認識しているのかについて検討した。その結果、①男性、得意意識、好感を持っている教員ほど、各項目の効力感を高く認識する傾向にあること、②年代については、それぞれの項目によって異なり、経験によって効力感が高まる可能性のあるものとそうでないものの存在があると考えられること、の傾向が示された。

これらの結果を受け、今後の検討課題として次の3点を示す。

- ① 小学校教師の体育授業に対する自己効力感や授業づくりの課題を明らかにするために、平成28年度に実施した予備調査結果を精査し、質問紙法による調査を全国実施して、自己効力感因子や課題を明確にすること
- ② 平成28年度に実施した研修における効果及び単独教員に実施した支援方法を精査し、教員の研修に対するニーズ、指導内容を身に付けることができる授業のために必要な知識などを特定することで、対象、内容、研修時間、領域、規模別に、効果が期待できる研修方法のプログラムを修正すること
- ③ 同様の内容であっても、プログラムの順番を変えたり、導入の仕方を変えることなどにより、受講者の意欲に相違が見られることから、研修プログラムを活用する上での講師としての支援の在り方も検証する。統合した研修(指導案づくりと授業の進め方)プログラムを構築し、その活用方法も含めて協力体制のある教育委員会の研修で実施し、自己効力感、知識、意欲などの変化を検証すること

謝 辞

本報告書は、「平成 28 年度スポーツ庁企画事業」における「事業名：子供の体力向上課題対策プロジェクト」のテーマ①「体力低下種目等の課題対策プログラムの開発等」に関する調査研究報告書である。

最後になりましたが、本調査研究遂行に関する予算的支援は、平成 28 年度スポーツ庁企画事業によって得られました。本研究を遂行するにあたり、スポーツ庁の関係者の皆様、徳島県、熊本県、東京都、福岡県、山口県、鳥取県、及び岡山県において開催した研修にご参加いただきました小学校教員の皆様並びに教育委員会の皆様等から、極めて温かなご協力を頂きました。また、日本体育大学、立命館大学、国士舘大学、並びに、岡山大学大学院の教職員、大学院生、及び学生から大きな協力を頂きました。

各位に対して、心より感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月 31 日

研究代表者 白旗 和也

平成 28 年度
スポーツ庁企画事業
事業名：子供の体力向上課題対策プロジェクト
(テーマ① 体力低下種目等の課題対策プログラムの開発等)

体育の授業を苦手としている小学校教員向け
研修プログラムの作成及び実践研究
調査研究事業報告書

研究代表者 白 旗 和 也 日本体育大学体育学部
研究分担者 大 友 智 立命館大学スポーツ健康科学部
細 越 淳 二 国士舘大学文学部
原 佑 一 岡山大学大学院教育学研究科
発行者 白 旗 和 也 日本体育大学体育学部
発行年月 平成 29 年 3 月